



慶應義塾大学 大学院

文学研究科

2023

GRADUATE SCHOOL OF
LETTERS

永い歴史と伝統をベースに、 新しい人文科学の研究へ

研究科委員長からのメッセージ

慶應義塾大学大学院文学研究科は、1951年に創設されて以来、西脇順三郎、井筒俊彦といった著名な研究者の伝統を継いで、人文科学全般の研究に大きな貢献をしてきました。哲学、史学、文学、図書館・情報学の4領域を中心に広く人文科学全体を覆う最高水準の専門研究を国際的に展開すると共に、幅広い教養と深い専門性を備えた研究者の養成を行うことで日本文化の発展に貢献し、さらに、アート・マネジメント、情報資源管理、日本語教育学の分野に見られるように、高度職業人の養成機関として大きな役割を果たしてきました。

修士課程及び博士課程の授業の大半は少人数の演習科目で、学生は、数多くの開講科目の中から指導教授のアドバイスを受けつつ、関連分野への視野と関心を保持しつつ、各自の専門的問題意識を発展させるための履修計画を立てることが可能です。

論文指導を担当する文学研究科委員の教員以外にも、文学部所属の専任教員の多くが大学院科目を担当しており、多方面からの親身な指導体制を確立しています。さらに慶應義塾全体の取り組みである「スーパーグローバル事業」の一環として、海外の著名な研究者を招聘して博士課程の学生の副指導教員として指導、先端的知見の教授など、教育内容の高度化のための取り組みも行っています。

博士論文は、各専攻が定めた手順に即して、論文の執筆と完成が可能になるように、さまざまな支援体制のもとで進められるように配慮されています。論文の審査には学外の専門家が副査として加わり、審査過程も透明性を有し、博士論文としての品質の高さが保証されています。そうして完成を見る博士論文は年間10本を超え、それらは国内外で次々と公刊されています。

豊富な教員による学生の研究テーマに密着した丁寧な指導と高度職業人の養成は、文学研究科の一番の特色であり、少人数セミナーと個別的な論文指導を通じて、学生は専門研究を進め、その成果を国際的に発信することが可能になっています。

文学研究科が基盤を置く三田キャンパスは、言語文化研究所、附属研究所斯道文庫、福澤研究センター、アート・センター、日本語・日本文化教育センターなど、人文科学分野のさまざまな研究所があり、文学研究科はこれらの研究機関と授業や研究において連携しています。さらにリーディング大学院プログラムをはじめとして、学内の他の研究科とのデュアルディグリープログラムが、領域横断的な研究を志す学生に用意されています。こうした

教育研究面における緊密な協力体制は、教育内容の幅を広げ、課題対応・問題解決の能力を涵養し、現実対応型の人材を養成するとともに、複数の領域を横断する独創的な研究を生み出すべく支援を行っています。

三田キャンパスには、国内有数の蔵書を誇り、和漢洋の貴重書を数多く所蔵する慶應義塾図書館や斯道文庫があり、これらの機関の協力のもとで歴史資料や貴重書を活用した研究をし、またそのための方法論を学ぶ環境も整っています。海外の研究機関との交流も活発で、海外の大学との共同セミナーや著名研究者による講演会などは、頻繁に開催されています。

慶應義塾大学には、充実した奨学金制度があります。各種の経済支援型の奨学金に加えて、優秀な成績や研究実績を挙げた学生を対象にした研究助成型の奨学金は、新入生と在学生在に分けて各種用意されており、修士・博士両課程在学中の全期間にわたってさまざまな学内奨学金への応募が可能です。また、文学研究科では、海外の大学院への留学を推奨しており、毎年多くの留学実績を残しています。慶應義塾全体の数多くの交換留学プログラムに加えて、研究科独自にロンドン大学キングス・コレッジへの短期留学プログラムも整備しています。国際学会発表や海外調査を行う大学院生のための支援制度も新型コロナウイルスによる渡航制限が解除され次第開始されます。

文学研究科に属する多くの研究者が文部科学省の科学研究費、学内の研究助成を受け、多様な共同研究プロジェクトを展開しています。文理融合型の「論理と感性のグローバル研究センター」は、代表例の一つです。そのような共同研究プロジェクトには大学院生も主要な若手メンバーとして参加しています。大学院生はプロジェクトに加わることで、その分野の最先端の研究に触れることができ、研究を進める上で大きな刺激を得ています。

歴史的視野と文化的多義性を尊重する人文科学の研究は、混迷多様化する現代においてますます重要性を増しています。人間は過去と他者から学ぶことによって、未来に対して展望を持ち対策を考える存在です。人間の知的営み、文化的交流、環境との関わりを多面的に研究し深く理解し、そのための方法論を確立してゆくことは、人間文化への大きな貢献であり、文学研究科はそのための最適な環境を提供することを目指しています。



文学研究科委員長
奈良 雅俊

文学研究科ホームページ
<https://www.gsl.keio.ac.jp/>

CONTENTS

2	研究科委員長からのメッセージ	12	国文学専攻 (国文学／日本語教育学)	20	大学院生の研究
3	ディプロマ・ポリシー カリキュラム・ポリシー アドミッション・ポリシー	14	中国文学専攻	21	教員の研究
5	哲学・倫理学専攻 (哲学／倫理学)	15	英米文学専攻	22	科学研究費(学術振興会)の採択課題
7	美学美術史学専攻 (美学美術史学／アート・マネジメント)	16	独文学専攻	23	学位
8	史学専攻 (日本史学／東洋史学／西洋史学／民族学考古学)	17	仏文学専攻	24	進路・留学
		18	図書館・情報学専攻 (図書館・情報学／情報資源管理)	25	学費・奨学制度ほか
		19	コースの新設	26	入試日程・入試データ
		裏表紙	Access Information ほか		

幅広い関心やニーズに応える、 専攻と分野の広がりと深まり

3つのポリシー

大学院文学研究科では、専門研究者の育成をめざして、ディプロマ・ポリシー（学位に関する方針）、カリキュラム・ポリシー（科目構成に関する規定）、アドミッション・ポリシー（入学に関する方針）の3つのポリシーを掲げています。

修士課程

ディプロマ・ポリシー

大学院文学研究科では、課程修了時に学生が身につけるべき能力として以下のものを定め、学則に従って修了要件を満たした学生についてはこの能力を身につけた者と認め、修士の学位を与える。

1. 専門とする分野において、研究領域全般に関する専門知識を身につけ、適切な研究方法とそれぞれの専門において必要となる諸言語を駆使して専門的な研究を展開し、その成果を母語や外国語で発表することができる。
2. 専門とする分野における特定テーマに関して修士論文を執筆し、さらに、修士論文のテーマに関連する領域については包括的な専門知識を有し、その領域の研究に貢献をすることができる。
3. 専門研究を通じて人間、文化、社会を考える力を持ち、重要な問題や課題を認識し、それを解決するための議論や実践に資する研究能力を有することで、高度なリテラシーと批判的分析能力を備えた研究者、教育者、実務家として社会に貢献できる。

カリキュラム・ポリシー

大学院文学研究科では、ディプロマ・ポリシーの達成を目的として以下のカリキュラムを編成する。

1. 文学研究科全体のカリキュラムの基盤として、各専攻・分野において修士課程の全在学期間を通じて履修可能な、母語ならびに外国語による少人数演習科目を設置する。
2. 修士論文の執筆を可能とするため、指導教員の個別論文指導と演習授業を通じ、研究テーマについての知識を深めるとともに、高度な研究能力および論述力を養う。また、修士論文中間報告会等の機会を設けて、複数の教員から指導を受ける機会を提供する。
3. 修士論文審査については、論文題目および主査（原則として指導教員）および2名の副査（専任教員）で構成される審査団の文学研究科委員会による承認、審査団による論文審査、審査団および関連教員による口頭試問を経て、最終的な審査結果を文学研究科委員会で審議、承認する。
4. 海外の大学院への正規留学によって取得した単位を修了要件に含めることを、単位数を限って認める。また、文学研究科独自の支援制度により留学を援助する。
5. 海外への留学等を念頭において、より柔軟な履修を行えるように全ての科目は半期科目として開講する。
6. 領域横断的な研究を可能とするために、慶應義塾大学大学院の他研究科および付属研究所の設置科目、さらに文学研究科と提携関係にある他大学院の設置科目を修了要件として履修することを、単位数を限って認める。

アドミッション・ポリシー

大学院文学研究科では、次のような資質を持つ学生を求めている。

1. 卒業論文執筆や専門科目の履修等を通じて自身の専門領域についての理解を深め、専門とする領域全般についての基礎知識を有している。
2. 大学院において何をどのような方法で研究したいのかという研究計画、あるいは専門的な知識やスキルの修得をキャリアにどのように活かせるかについて具体的な計画を自ら考え、まとめることができる。
3. 諸言語の一次資料および二次資料を正確かつ批判的に読むことができる基礎的な読解力、学術的内容を的確に論じることができる基礎的な表現能力を身につけている。
4. 修士課程修了後の研究者、教育者、実務家としてのキャリアについて、積極的に考えている。

後期博士課程

ディプロマ・ポリシー

大学院文学研究科では、課程修了時に学生が身につけるべき能力として以下のものを定め、学則に従って修了要件を満たし、博士論文審査に合格した学生についてはこの能力を身につけた者と認め、博士の学位を与える。

1. 専門とする分野の研究を内容として博士論文を執筆し、その論文を通じて、当該領域の研究に独創的な寄与を成すことができる。
2. 研究対象とする分野において、最新の研究動向や研究課題に精通し、包括的で深い専門知識を有し、母語や外国語で国際的に成果を発信してその分野の研究に独自の貢献ができる。
3. 専門研究を通じて人間、文化、社会を深く洞察する力を持ち、重要な問題や課題を発見し、それを解決していくための高度な研究能力を有することで、高度なリテラシーと批判的分析能力を備えた研究者、教育者、実務家として社会に独自の貢献ができる。

カリキュラム・ポリシー

大学院文学研究科では、ディプロマ・ポリシーの達成を目的として以下のカリキュラムを編成する。

1. 専門とする分野の研究に独創的な貢献をする博士論文の執筆を可能とするため、指導教員が担当する科目を中心とした履修を行うとともに、指導教員が中心となって個別に論文指導を行い、高度な研究能力を養う。
2. 博士学位取得のためには、学生は専攻、分野が定めた博士論文執筆資格審査に合格し、博士論文を文学研究科委員会に提出して受理される必要がある。さらにその後1年以内に、文学研究科委員会で承認された主査および副査によって論文が審査され、文学研究科委員会に報告された審査報告に基づき、文学研究科委員全員の投票によって合格しなくてはならない。
3. 専門とする領域において最新の研究動向や研究課題に精通し、独自の貢献をするために必要な高度な研究能力を養成するため、後期博士課程の全在学期間を通じて履修可能な母語や外国語による少人数演習科目を設置し、その履修を修了要件とする。研究成果を学会や学術専門誌で発表することを目的として具体的な指導を行う。
4. 文学研究科ならびに慶應義塾大学国際センター等を通じての留学を推奨する。また、文学研究科独自の支援制度により留学を援助する。
5. 海外への留学等を念頭において、より柔軟な履修を行えるように、全ての科目は半期科目として開講する。
6. 研究分野のより専門的な研究を可能とするために、海外の大学院への正規留学によって取得した単位を修了要件に含めることを、単位数を限って認める。
7. 後期博士課程の学生の高度に専門的な研究を推進するために、海外の著名な研究者に副指導教員としての指導を依頼し、文学研究科委員の指導教員との共同指導のかたちで博士論文を準備することができる。

アドミッション・ポリシー

大学院文学研究科では、次のような資質を持つ学生を求めている。

1. 自分の研究領域および関連分野について、高度な専門的知識を有している。
2. 修士課程における専門的研究をふまえて、博士論文につながる独創性のある具体的な研究計画を自ら考え、まとめることができる。
3. 外国語の資料を正確かつ批判的に読むことができる分析的な読解力、学術的な論述力を身につけている。
4. 後期博士課程修了後の研究者、教育者、実務家としてのキャリアについて、積極的かつ具体的に考えている。

哲学分野

哲学分野は、文学研究科に設置されて以来一貫して西洋哲学を追求し、日本の哲学研究の中核を担ってきました。哲学は最も古い学問ですが、その長い伝統と先端の両方を兼ね備えているのが本分野です。哲学のすそ野は広大で、すべてをカバーすることはできませんが、伝統と現代の二点に研究の焦点を定めた点に特徴があります。スタッフは古典研究2名、現代研究5名と、重点的な配置になっています。院生は、修士課程と後期博士課程にそれぞれ十数名が在籍し、他大学や他学部からの入学者も珍しくありません。

本専攻の伝統の一つは古代ギリシア・中世の古典研究にあり、プラトン、アリストテレスから中世哲学まで幅広い領域をカバーできる、国内の大学では珍しい充実した陣容となっています。そこでは古代ギリシア語やラテン語が飛び交い、哲学の原点にある諸問題が議論されます。もう一つの伝統は、二十世紀以降の現代哲学の研究です。そのなかでは論理学や言語哲学、科学哲学、現象学といった新しい潮流はもちろんのこと、形而上学や認識論などの古くからの領域もアップデートされ、分野の垣根を越えた探求が日々進められています。

大学院の授業は、修士課程では修士論文、後期博士課程では博士論文という目標のために、必要な語学や哲学の基本ツールを修得し、さらにそれを磨く場となっています。また、学生は学内外での研究に積極的に参加し、学内における三田哲学会の例会、MIPS(三田哲学会の哲学・倫理学の合同研究集会)での発表、機関誌『哲学』への論文執筆のほか、各々の専門と関連する全国学会での発表、論文投稿など、活動の機会は大きく広がっています。他方で、さまざまな研究プロジェクトも展開されており、教員だけでなく多くの学生もその研究の一端を担う形で参加しています。

また、専任教員と学生の関係にも良き伝統が生きています。相互の信頼を基礎に日々の研究が進められていることはもちろん、授業以外での共同研究、さらには人間的なふれあいも随所に見られます。学生同士での勉強会も多く、相互啓発が活発に行われています。

教員紹介 (2022年度参考、2023年度は変更になる場合があります)

担当者	専門分野	主要著作
教授 荒畑 靖宏 ARAHATA, Yasuhiro	言語と心の哲学 解釈学	『世界を満たす論理：フレーゲの形而上学と方法』(勁草書房, 2019)、『これからのウィトゲンシュタイン：刷新と応用のための14篇』(荒畑靖宏・山田圭一・古田徹也編著, リベルタス, 2016)、『世界内存在の解釈学：ハイデガー「心の哲学」と「言語哲学」』(春風社, 2009)、 <i>Welt – Sprache – Vernunft</i> , Ergon Verlag, Würzburg, 2006.
教授 上枝 美典 UEEDA, Yoshinori	西洋中世哲学	『現代認識論入門：ゲティア問題から徳認識論まで』(勁草書房, 2020)、ジョン・グレコ『達成としての知識：認識的規範性に対する徳理論的アプローチ』(翻訳, 勁草書房, 2020)、「トマスにおける神の知の不変性と時間の認識」(『中世思想研究』58号, 2016)、「トマスの神はエッセのアイデアか」(『中世思想研究』55号, 2013)、「現実性としてのエッセ再考」(『アルケー 関西哲学会年報』21号, 2013)
教授 柏端 達也 KASHIWABATA, Tatsuya	行為論 現代形而上学	『自己欺瞞と自己犠牲』(勁草書房, 2007)、「幸福の形式」(戸田山和久・出口康夫編『応用哲学を学ぶ人のために』世界思想社, 2011)、「自己欺瞞」(信原幸弘・太田紘史編『シリーズ新・心の哲学III 情動篇』勁草書房, 2014)、『コミュニケーションの哲学入門』(慶應義塾大学出版会, 2016)、『現代形而上学入門』(勁草書房, 2017)
教授 金子 善彦 KANEKO, Yoshihiko	西洋古代哲学	「アリストテレスのファンタシアー概念と虚偽の現われ」(『西洋古典学のアプローチ』見洋書房, 2021)、「動物の知性：『動物誌』に見るその位置づけと「擬人化」の問題」(『理想』第696号, 理想社, 2016)、アリストテレス全集第八・九巻『動物誌』上・下(共訳・解説, 岩波書店, 2015)
教授 斎藤 慶典 SAITO, Yoshimichi	現象学 西洋近・現代哲学	『「實在」の形而上学』(岩波書店, 2011)、『生命と自由：現象学、生命科学、そして形而上学』(東京大学出版会, 2014)、『「東洋」哲学の根本問題：あるいは井筒俊彦』(講談社, 2018)、『私は自由なのかもしれない：〈責任という自由〉の形而上学』(慶應義塾大学出版会, 2018)、『危機を生きる――哲学』(毎日新聞出版, 2021)

倫理学分野

倫理学分野は、哲学分野とともに長い歴史を有しています。哲学とは別に倫理学を専門分野として設けている大学院は全国でもわずかしがなく、その中でも、本分野は最大規模のスタッフを擁しており、日本における倫理学研究の拠点の一つになっています。

倫理学分野のスタッフがカバーしているのは、近現代のドイツ、フランス、イギリス、アメリカの思想です。発足以来、この領域に重点を置きながら、スタッフをバランスよく配しています。また、現代の倫理学は規範倫理学・メタ倫理学・応用倫理学に大別されますが、本分野では、規範倫理学はもちろん、メタ倫理学や応用倫理学の研究・教育も行っています。さらに、宗教哲学、社会哲学など、倫理学と密接に関連する領域についても、長年にわたり、研究と教育を行っています。

スタッフの具体的な専門分野は、中世・近世の形而上学、現代のフランス思想、近代のイギリス倫理思想史、カントの倫理学、医療倫理学、メタ倫理学などです。他の領域については、毎年、専門の研究者を講師として招いており、倫理学について広く研究することができます。

倫理学分野は少人数教育をとくに重視しています。例年、修士課程には4名程度、後期博士課程には5名程度の大学院生が在籍しており、それぞれの問題関心に従って専門研究を進めています。修士課程では、研究者としての基礎を養い、優れた修士論文を執筆することを目標としています。後期博士課程では、学会や研究会での口頭発表や論文執筆などを通じて、研究者としての能力を高め、研究成果を博士論文としてまとめることを目標にしています。修了者の多くは研究者の道に進みますが、大学院で得た専門知識を活かして社会で活躍する人も数多くいます。

教員紹介 (2022年度参考、2023年度は変更になる場合があります)

担当者	専門分野	主要著作
教授 エアトル ヴォルフガング ERTL, Wolfgang	倫理学史 形而上学 現代倫理学	Kants Auflösung der "dritten Antinomie": Zur Bedeutung des Schöpfungskonzepts für die Freiheitslehre(Freiburg, München: Alber, 1998)、David Hume und die Dissertation von 1770: Eine Untersuchung zur Entwicklungsgeschichte der Philosophie Immanuel Kants(Frankfurt/M.: Lang, 1999)、“Ludewig” Molina and Kant's Libertarian Compatibilism, in Matthias Kaufmann and Alexander Aichele (eds.) , A Companion to Luis de Molina (Leiden, Boston: Brill 2014)、The Guarantee of Perpetual Peace (Cambridge: Cambridge University Press 2020)、Preparing the Ground for Kant's Highest Good in the World. In: Philosophia (2021, online pre-edition) , https://doi.org/10.1007/s11406-021-00330-w
教授 柘植 尚則 TSUGE, Hisanori	イギリス倫理思想史	『良心の興亡：近代イギリス道徳哲学研究』(ナカニシヤ出版, 2003／増補版, 山川出版社, 2016)、『イギリスのモラリストたち』(研究社, 2009)、『ブレップ倫理学』(弘文堂, 2010)、『ブレップ経済倫理学』(弘文堂, 2014)、『近代イギリス倫理思想史』(ナカニシヤ出版, 2020)
教授 奈良 雅俊(哲龍) NARA, Masatoshi (Tetsuro)	現代フランス哲学 医療倫理学	『シリーズ生命倫理学 第12巻 先端医療』(共著, 丸善出版, 2012)、The Future of Bioethics: International Dialogues(共著, Oxford University Press, 2014)、『救急・集中治療における臨床倫理』(共著, 克誠堂出版, 2016)、『入門・倫理学』(共著, 勁草書房, 2018)
教授 山内 志朗 YAMAUCHI, Shiro	西洋中世・近世思想 倫理学と形而上学	『天使の記号学』(岩波書店, 2001)、『ライブニッツ』(NHK出版, 2003)、『普遍論争：近代の源流としての』(平凡社ライブラリー, 2008)、『存在の一義性を求めて』(岩波書店, 2011)、『「誤読」の哲学：ドゥルーズ、フーコーから中世哲学へ』(青土社, 2013)

慶應義塾における美学美術史学の歴史は、1892(明治25)年に開講された森嶋外の「審美学」にまで遡ります。当初は美学および西洋美術史から出発しましたが、その後、日本・東洋美術史、西洋音楽史、音楽が関わる舞台芸術一般を研究領域に加え、近年は芸術運営、芸術支援などの研究・教育にも積極的に取り組んでいます。

すなわち本専攻には、理論研究(美学・芸術学)、歴史研究(美術史・音楽史・舞台芸術史・現代芸術論)、実践研究(アート・マネジメント)の3つの柱があります。2005(平成17)年度には、この3つの柱を下記の2つの分野に集約し、より充実した教育が行える体制を整えました。なお学生は、在籍する分野と異なる分野に設置された科目を一定の範囲内で履修し、修了に必要な単位とすることが可能です。

美学美術史学分野

美学美術史学分野は、理論研究、歴史研究を行う分野です。美学・芸術学、日本・東洋美術史、西洋美術史、西洋音楽史、舞台芸術史、現代芸術論が研究教育の範囲となります。専任者のほか若干名の非常勤講師が授業を担当し、幅広い分野をカバーしています。修士課程では修士論文の作成が必須です。また、後期博士課程では専門研究者として内外で活躍する人材の養成を目指し、学位論文(課程博士)提出により博士学位を取得する道が用意されています。

アート・マネジメント分野

アート・マネジメント分野は、芸術経営において必要とされる諸領域の知識、先導的なスキル獲得とプロフェッショナル養成を目標とした分野です。大学卒業後3年以上が経過し、実務経験を有する社会人が対象となります。授業内容は、非営利組織論、組織理論と組織行動論、マーケティング、ファンドレイジング、文化政策、芸術関連法規、ケース・メソッドなどから構成され、専任者のほか各領域で活躍する講師が教育にあたります。現在、開設されているのは修士課程のみで、社会人の学生のために平日夜間と土曜に集中して開講しています。修了には修士論文の作成が必須です。

教員紹介

(2022年度参考、2023年度は変更になる場合があります)

担当者	専門分野	主要著作
教授 金山 弘昌 KANAYAMA, Hiromasa	西洋美術史	『黎明のアルトピア：ベッリーニからレオナルド・ダ・ヴィンチへ』(共著・責任編集、ありな書房、2018)、『魔術の生成学ーピエロ・ディ・コジモからバラツツォ・ピッティへ』(共著・監修解説、ありな書房、2016)、『ガリレオと建築：17世紀フィレンツェ建築における『新科学』の影響』(『日吉紀要 人文科学』、第30号、2015)、『女性の表象学：レオナルド・ダ・ヴィンチからカッリエーラへ』(共著、ありな書房、2015)、『変身の形態学：マンテーニャからブッサンへ』(共著・責任編集、解題7、ありな書房、2014)
教授 後藤 文子 GOTO, Fumiko	西洋美術史	「ベーター・ペーレンスにおける「生長(Wachstum)」概念：一九二〇年代以後の庭園芸術論を再考する」(『芸術学』第24号、三田芸術学会、2021)、『ヴァイマル・パウハウスと庭園芸術』(『美学』257号、美学会、2020)、『ドイツ近代造園とゲーテ：ヴァイマルの「ゲーテ荘園の庭」修復(1948–49年)を中心に：Moderne deutsche Gartenkunst und Goethe. Zur Restaurierung von Goethes Gartenhaus in Weimar (1948/49)』(日独二か国語版、科研成果論文：課題番号18K18490、2020)、Ostwalds Farbenlehre und die Farben von Pflanzen. Über Farbentafeln im Gartenbau, in: Mitteilungen der Wilhelm-Ostwald-Gesellschaft e. V., 22.Jg. 2017, H. 2、『近代園芸学とオストヴァルト色彩論』(『美学』248号、美学会、2016)
教授 遠山 公一 TOYAMA, Koichi	西洋美術史	"Brunelleschi's ram," The Burlington Magazine, vol.136, no.1101, 1994、「台座考」(『西洋美術研究』第9号、2003)、「Light and Shadow in Sassetta: The Stigmatization of Saint Francis and the Sermons of Bernardino," in Machtelt Israëls (ed.) , Sassetta, The Borgo San Sepolcro Altarpiece, Leiden-Florence, 2009、『祭壇画の解体学』(編著、ありな書房、2011)、「L'ombra e le reliquie: il caso dell'effigie del beato Bernardino dipinta da Pietro di Giovanni d'Ambrogio nella Pinacoteca Nazionale di Siena," Iconographica, XIX, 2020.
教授 内藤 正人 NAITO, Masato	日本美術史	『もっと知りたい歌川広重：生涯と作品』(東京美術、2007)、『勝川春章と天明期の浮世絵美人画』(東京大学出版会、2012)、『浮世絵とパトロン』(慶應義塾大学出版会、2014)、『うき世と浮世絵』(東京大学出版会、2017)、『北斎への招待』(朝日新聞出版、2017)
教授 西川 尚生 NISHIKAWA, Hisao	音楽学 西洋音楽史	『モーツァルト』(音楽之友社、2005)、『ラノワ・コレクションのモーツァルト資料』(樋口隆一編著『進化するモーツァルト』春秋社、2007)、『モーツァルト《ト短調交響曲》K. 550の"Corrupt Passage"再考』(『新モーツァルティアーナ 海老澤敏先生傘寿記念論文集』音楽之友社、2011)、『W. A. モーツァルトの演奏用パート譜に関する一考察：「筆者者二七」のミサ曲史料を中心に』(『芸術学』(慶應義塾大学・三田芸術学会誌)第22号、2018)、「Die Bassbesetzung in den Serenaden, Divertimenti und Notturni von Michael Haydn」(<i>Johann Michael Haydn. Werk und Wirkung</i> , Strube Verlag, München, 2010)
教授 藤谷 道夫 FUJITANI, Michio	イタリア語・イタリア文学 西洋古典学 比較文学	『ダンテの『神曲』を読み解く』(教育評論社、2021)、『ダンテ『神曲』における数的構成』(慶應義塾大学出版会、2016年)、Shinkyoku, il canto divino. Leggere Dante in Oriente, Trento, Editrice Università degli Studi di Trento, 2000, Dalla legge ottica alla poesia: la metamorfosi di «Purgatorio» XV 1-27「«Studi danteschi», vol. LXI, 1989」, Società Dantesca Italiana, "Leggere le poesie dall'ottica filosofica orientale/occidentale: Haru to shura di Miyazawa Kenji e La Divina Commidia (Inf.VII, XVII, XIX) di Dante Alighieri" (Congedo editore, 2008)
教授 望月 典子 MOCHIZUKI, Noriko	西洋美術史・芸術学	『ニコラ・ブッサン：絵画的比喻を読む』(慶應義塾大学出版会、2010)、『タブローの物語：フランス近世絵画史入門』(慶應義塾大学三田哲学会叢書、2020)、「一七世紀フランスにおける彫刻と色彩についての試論：ロジェ・ド・ピールによるズンボの着色蝋彫刻の評価を中心に」(『芸術学』(三田芸術学会)、24号、2021)、「Le tableau d'autel du Roi: L'institution de l'eucharistie de Nicolas Poussin," Aesthetics (The Japanese Society for Aesthetics) , no.22, 2018, "Mars et Vénus de Nicolas Poussin: Sa réception de l'art antique et de la poétique de Marino," Dix-Septième siècle (Presses Universitaires de France) , no.255, 2012.

日本史学分野

史学専攻では、歴史を個々の人間の営為の積み重ねととらえ、歴史を学ぶことは、人間とその生きた社会を知ることと位置づけています。そのために、時には対象とする地域や時間、あるいは、旧来の学問の枠を越え隣接科学の成果も踏まえるなど、より多くの学びを求めています。

特に日本史学分野で重視しているのは、日本史の研究を国内史に狭くとどめることなく、国際的な視野に立って検討することと、現代の目から見るだけでなく、その時代の人々の視点や思考に即して歴史を捉えるように努めることです。古代の社会を日中の史料の比較から、中世の経済を東アジアの交易圏に組み込まれた形で、キリシタン時代の社会を地球規模の動きの中で、「鎖国」時代の国内問題を国際関係の視点から、近代の国内市場の動向を植民地・諸外国に向けた対外取引との連関に注目しつつ、それぞれ捉えるのが、前者の例としては分かりやすいでしょう。古代の人々の仏教との関わり方を階層ごとに掬い取る、中世の人々の貨幣観念を復元する、近世の人々の多様な信仰の実態を探る、近代の産業が地域ごとに製品のバリエーションを生みながら発展してきた基盤や背景を掘り下げるなどの研究は、後者の方向性から生まれてくるものです。

いずれにしても学生は、歴史学のもつ広範な領域と方法を学ぶことになるはずです。そして、このような目的を達成するために良質な史料を活用し、それにより実証的な研究を進めるよう指導しています。大学院修了後には、学界などでも広く通用する日本史研究者や博物館学芸員、中学校・高等学校で教鞭をとる歴史教育者を育成できるよう努力しています。

授業は7名の専任教員と若干名の非常勤講師が担当しています。修士課程では毎年10科目前後が開講されています。それらは史料講読を中心とする科目(日本史特殊講義演習、古文書学特殊講義)と、講義を中心とする科目(日本史特殊講義)に大別され、修士論文の作成が必修とされています。また、後期博士課程では研究論文の作成支援を行うほか、史料講読を主とする日本史特殊研究が5科目前後開講されています。後期博士課程の学生には、学位論文(課程博士)を提出して博士(史学)の学位を取得する道が開かれています。

修士課程と後期博士課程はともに、古代から近現代に至るまで各時代の科目を満遍なく開講し、可能な限り多様な対応を試みています。授業はいずれも学生5～6名前後の少人数で行われ、授業科目によっては史料調査、博物館・文書館・遺跡の見学などを行います。

教員紹介

(2022年度参考、2023年度は変更になる場合があります)

担当者	専門分野	主要著作
教授 浅見 雅一 ASAMI, Masakazu	キリシタン史 中国天主教史	『キリシタン時代の偶像崇拜』(東京大学出版会、2009)、『フランシスコ＝ザビエル：東方布教に身をさげた宣教師』(山川出版社、2011)、『概説キリシタン史』(慶應義塾大学出版会、2016)、『キリスト教と寛容：中近世の日本とヨーロッパ』(共編著、慶應義塾大学出版会、2019)、『キリシタン教会と本能寺の変』(角川新書、2020)
教授 井奥 成彦 IOKU, Shigehiko	近世－近代日本社会経済史	『19世紀日本の商品生産と流通』(日本経済評論社、2006)、『近代日本の地方事業家』(共編著、日本経済評論社、2015)、『醤油醸造業と地域の工業化』(共編著、慶應義塾大学出版会、2016)、『日本経済史1600-2015』(共著、慶應義塾大学出版会、2017)、『豪農たちの近世・近代』(共編著、東京大学出版、2018)
教授 中島 圭一 NAKAJIMA, Keiichi	日本中世史	「貨幣からみた『日本』：中世貨幣の成立から解体まで」、『環』6、2001)、「中世の寺社金融」(『宗教社会史』〈新体系日本史15〉、山川出版社、2012)、「中世貨幣成立期における朝廷の渡来銭政策の再検討」(『日本史研究』622、2014)、『十四世紀の歴史学：新たな時代への起点』(編著、高志書院、2016)、「十五世紀生産革命論再論」(『国立歴史民俗博物館研究報告』210、2018)

東洋史学分野

東洋史研究の対象は一般的にアジアと呼ばれる地域ですが、問題設定の方法、時代によってはアフリカやヨーロッパもその視野に入ってきます。中東イスラーム世界の歴史研究を志す人にとって、マグリブやバルカンも重要地域であり、華人のネットワークに興味をもつ人は、アジアのみならずアメリカやヨーロッパも視野に入れなければなりません。

東洋史の魅力は、このような広大な対象地域にあるといっても過言ではありません。しかし、専門性を重視する大学院においては、広く浅く学ぶというやり方は避けなければなりません。そこで東洋史学分野では、これまでの学問的な伝統と、史料を読むツールとしての語学などとの関係から、以下のように対象を東西二つの領域に分けています。それぞれの領域で完結性の高いカリキュラムを組み、深く学べるようになっています。

一つ目の領域は、中国を中心とする東アジア史研究です。ここには中国古代史研究と、史料を重視する実証主義史学や文献史学の伝統に基づく、明清から人民共和国期にかけての中国近現代史研究が含まれます。前者は松本信広以来の学統である民俗学的手法を取り入れたもの、後者は明治から大正期にかけて日本を代表する東洋史学者であった、田中萃一郎によって切りひらかれたものです。また、日本と中国および世界の華人ネットワークを視野に入れた都市社会史や文化交流史も、もう一つの柱になっています。

二つ目の領域は、アラブ、トルコ、イラン、中央アジアなどの中東イスラーム世界史研究です。かつてこれら諸地域の研究は、中国の辺境史としての位置づけしか与えられてきませんでした。しかし、今では世界をとりまく情勢が変わり、緊急にして最重要な分野として誰もが認めるようになっています。本塾ではこの分野におけるパイオニアである前嶋信次、井筒俊彦の学統を継承しながら、アラブでは社会史研究に、非アラブではオスマン帝国史研究に重点をおきながら研究・教育を行っています。

以上は教員サイドから見た特徴と言えるものですが、院生は基本的に自分の好きなテーマで研究が行えるようになっています。自分の頭と身体でアジアを知り、師を越えるという気概を持ち、自らの手で新しいフロンティアを探りあて社会に巣立って欲しいという思いがあるからです。そのために、外部から多彩な講師陣を招いて知的刺激の拡充に努める一方、社会に出てから場合によっては欧米系の言葉以上に有力な武器となる、東西のアジア系諸言語を存分に学べるカリキュラムが用意されています。

教員紹介 （2022年度参考、2023年度は変更になる場合があります）

担当者	専門分野	主要著作
教授 岩間 一弘 IWAMA, Kazuhiro	東アジア近現代史 食の文化交流史 中国都市史	『上海大衆の誕生と変貌：近代新中間層の消費・動員・イベント』（東京大学出版会、2012）（葛清・甘慧杰訳『上海大衆的誕生と変貌：近代新興中産階級的消費、動員和活動』上海辞書出版社、2016）、『中国料理と近現代日本：食と嗜好の文化交流史』（編著書、慶應義塾大学出版会、2019）、『旅行満洲』に見る都市・鉄道・帝国の食文化：「満洲料理」「満洲食」の創成をめぐる」（（『旅行満洲』解説・総目次・索引』不二出版、2019）、『中国料理の世界史：美食のナショナリズムをこえて』（慶應義塾大学出版会、2021）、"How Taiwanese, Korean, and Manchurian cuisine were designed: A comparative study on colonial cuisines in the Japanese Empire," in Al-Madaniyya, 1, September 2021.
教授 長谷部 史彦 HASEBE, Fumihiko	中東社会史 地中海交流史	『中世環地中海圏都市の救済』（編著、慶應義塾大学出版会、2004）、『オスマン帝国治下のアラブ社会』（単著、山川出版社、2017）、『地中海世界の旅人：移動と記述の中近世史』（編著、慶應義塾大学出版会、2014）、『ナイル・デルタの環境と文明Ⅰ・Ⅱ』（編著、早稲田大学イスラーム地域研究機構、2012-13）、『岩波講座世界歴史10 イスラーム世界の発展』（共著、岩波書店、1999）

西洋史学分野

西洋史学分野の修士課程では、以下に紹介する教員の個別研究分野よりやや広い分野で、一次史料や基礎的研究文献を講読し、基礎知識の獲得を目指します。後期博士課程では、身につけた基礎知識を前提として、さらに高度な研究能力を養成します。そして、学位論文の作成を通じて研究者を育成することを目標とします。西洋史は、時間的・空間的に膨大な領域を対象とします。しかし、学部教育と違い大学院、特に後期博士課程では、学生の研究分野と教員の指導できる分野が近接していなければなりません。そういった意味から、以下に各教員の個別研究分野をやや詳しく紹介しますので、参考にしてください。

神崎忠昭の専門分野は中世教会史で、特にヨーロッパ中世の人々の信心を探ることを目指しています。史料制約があり庶民を対象とすることは難しいため、8世紀から14世紀にかけての修道士たちが著したラテン語テキストを丹念に読み込んでいます。山道佳子はカタルーニャの近代社会文化史を専門にしています。現在は18世紀後半から19世紀前半のバルセローナにおける絹を扱う手工業者を主な対象として、経済状況の変化に彼らがどのように対応したのか、当該時期に彼らの労働文化や生活文化、あるいは家族のあり方はどのように変化したのか、解散を迎える前のギルドはどのように機能したのかといった問題を、遺言書や死後財産目録、徒弟契約などの公証人文書から明らかにする研究に取り組んでいます。清水明子は、ドイツ、バルカン現代史を専門にしています。現在は、ナチス・ドイツのヨーロッパ広域秩序構想と大クロアチア国民国家建設の接点における、権力関係と社会的変容の再構成に取り組んでいます。野々瀬浩司は、スイス及び西南ドイツの宗教改革期を対象に、宗教改革の思想的背景、神学上の諸問題、さらには農奴領主制の変化などを研究していましたが、最近は都市と宗教改革の関係について調べています。赤江雄一は、特にカトリック教会がその教説を民衆にひろめるために13世紀以降に大規模に展開した説教活動の諸側面にかかわる諸史料（ラテン語、中世英語）を研究しています。大学院では、中世ヨーロッパ宗教史および中世イングランド史を担当します。長谷川敬は、古代ローマ社会経済史を専門とし、特にカエサル征服後のガリアやローマ領ゲルマニアの商人、職人、運送業者が、どのような人的ネットワークを構築していたのかを、主に碑文史料から明らかにすることを目指しています。

教員紹介 （2022年度参考、2023年度は変更になる場合があります）

担当者	専門分野	主要著作
教授 神崎 忠昭 KANZAKI, Tadaaki	西洋中世史	ジャン・ルクレール『修道院文化入門：学問への愛と神への希求』（共訳、知泉書館、2004）、『ヨーロッパの中世』（慶應義塾大学出版会、2015）、『断絶と新生：中近世ヨーロッパとイスラームの信仰・思想・統治』（編著、慶應義塾大学出版会、2016）
教授 清水 明子 SHIMIZU, Akiko	ドイツ現代史・ユーゴスラヴィア史	Die deutsche Okkupation des serbischen Banats 1941-1944 unter besonderer Berücksichtigung der deutschen Volksgruppe in Jugoslawien (Münster: Lit-Verlag, 2003).、「バルカンにおける負の連鎖：ボスニア内戦を中心に」、『「対テロ戦争」の時代の平和構築：過去からの視点、未来への展望』（東信堂、2008）、「ナチス・ドイツ傀儡『クロアチア独立国』のセルビア人虐殺（1941～42年）」および「クロアチア『祖国戦争』と『民族浄化』（1991～95年）」、『大量虐殺の社会史：戦慄の20世紀』（ミネルヴァ書房、2007）、「ボスニア紛争のメカニズム：多民族社会の再建に向けて」、『紛争現場からの平和構築：国際刑事司法の役割と課題』（東信堂、2007）、K.カーザー『ハブスブルク軍政国境の社会史』（共訳、学術出版、2013）
教授 野々瀬 浩司 NONOSE, Koji	スイス宗教改革史 農村社会史	『ドイツ農民戦争と宗教改革：近世スイス史の一断面』（慶應義塾大学出版会、2000）、「ドイツ農民戦争期におけるチューリヒの農奴制問題について」（『西洋史学』197号、2000）、「宗教改革者と農奴制：ベルンの再洗礼派の例を中心にして」（『西洋史学』212号、2004）、「宗教改革と農奴制：スイスと西南ドイツの人格的支配」（慶應義塾大学出版会、2013）、「キリスト教と寛容：中近世の日本とヨーロッパⅤ」（共編著、慶應義塾大学出版会、2019）
教授 山道 佳子 YAMAMICHI, Yoshiko	スペイン（カタルーニャ）近代史	『近代都市バルセロナの形成：都市空間・芸術家・バトロン』（共著、慶應義塾大学出版会、2009）、「ギルド社会における職業と家族：産業革命前夜のバルセローナにおける絹産業」（『スペイン史研究』28号、2014）、「産業化以前のバルセローナにおける家業と女性（1770-1820）：絹産業ギルドの親方・職人とその妻、寡婦、娘たちの「結婚契約書」「遺言書」から」（『史学』89巻4号、2021）、『概説近代スペイン文化史』（第3章 王政復古期の文化、第16章 スポーツの文化史 担当）（共著、ミネルヴァ書房、2015）、"Silk textiles, crisis and adaptative strategies in Catalonia, 1770-1850s (Barcelona and Manresa) ",(共著、Continuity and Change, vol.35-no.1, 2020.)

民族学考古学分野

民族学考古学分野では、フィールドワークに基づいて集積された一次資料を利用して、過去の社会や民族文化の歴史的再構成を行います。主な研究指導対象分野としては、日本の先史考古学、歴史考古学、南レヴァント地方を中心とする西アジア考古学、太平洋地域の考古学・民族学、動物考古学、ジオ考古学、考古学研究法、自然人類学などが挙げられます。また、考古・民族資料コレクションの形成をめぐる博物館学・博物館人類学的研究も行っています。

大学院教育としては、担当教員による個別の論文指導および教員、学生全員が参加する演習授業による研究発表および討論が中心となっています。教員はそれぞれ専門のフィールドを持っていますので、各フィールドの調査に参加し、野外調査の実践および分析、報告の仕方を学ぶことができます。また、学会等における発表も積極的に行われています。

本分野では、長年の調査で蓄積された豊富な考古・民族・古人骨資料が保管されていますので、それらをもとに研究を進めることも可能です。総合大学の研究科として、他学部、他専攻、諸研究所と共同でアッカド語、ヘブル語などの特殊言語や自然科学的手法、統計的解析手法を習得することもできます。最終的には、独自の研究を仕上げることで、研究に必要な技術を兼ね備えた総合的リサーチ・デザインを描ける研究者の養成を目指しています。

教員紹介

(2022年度参考、2023年度は変更になる場合があります)

担当者	専門分野	主要著作
教授 安藤 広道 ANDO, Hiromichi	日本考古学 博物館学	「『水田中心史観批判』の功罪」(『国立歴史民俗博物館研究報告』第185集, 2014)、「博物館と弥生時代集落研究」(『横浜に稲作がやってきた』横浜市歴史博物館, 2017)、『日吉台遺跡群発掘調査報告書：2006～2014年度の調査成果』(慶應義塾大学民族学考古学研究室, 2019)、「近現代考古学の可能性：社会に開かれた歴史を目指して」(『経済史研究』第23号, 2020)、『慶應義塾大学日吉キャンパス一帯の戦争遺跡の研究Ⅱ』(慶應義塾大学民族学考古学研究室, 2020)
教授 河野 礼子 KONO, Reiko	自然人類学	New hominoid mandible from the early Late Miocene Irrawaddy Formation in Tebingan area, central Myanmar. (共著, Anthropological Science, 2021)、『人間の本質にせまる科学 自然人類学の挑戦』(共著, 東京大学出版会, 2021)、「3次元デジタル復元に基づく白保4号頭蓋形態の予備的分析と顔貌の復元」(共著, Anthropological Science (Japanese Series) , 2018)、Evolutionary trend in dental size in Gigantopithecus blacki revisited. (共著, Journal of Human Evolution, 2015)、Paleobiological implications of the Ardipithecus ramidus dentition. (共著, Science, 2009)
教授 佐藤 孝雄 SATO, Takao	動物考古学 民族考古学	Animals and their Relation to Gods, Humans and Things in the Ancient Wold. (共著, Springer VS, 2019)、『人と動物の日本史1 動物の考古学』(共著, 吉川弘文館, 2008)、Rediscovery of the oldest dog burial remains in Japan. (Anthropological Science, vol.123, no.2, 2015)、Paleoenvironment of the Fore-Baikal region in the Karginian interstadial: Results of the interdisciplinary studies of the Bol'shoj Naryn site. (Quaternary International, vol.333, 2014)、「中近世アイヌのシカ送り儀礼」(『動物考古学』30, 2013)
教授 杉本 智俊 SUGIMOTO, David T.	西アジア考古学 聖書考古学	『図説 旧約聖書の考古学』(河出書房新社, 2021)、『図説 新約聖書の考古学』(河出書房新社, 2021)、『 <i>Female Figurines with a Disk from the Southern Levant and the Formation of Monotheism</i> (Keio University Press, 2008)、『 <i>Transformation of a Goddess: Ishtar-Astarte-Aphrodite</i> (編著, Fribourg Academic Press and Vandenhoeck)、『イスラエル国エン・ゲヴ遺跡：2009～2011年度調査報告』(共編, 慶應義塾大学西アジア考古学調査団, 2016)、「Stratigraphy of Tel 'En Gev, Israel: Correlation among Three Archaeological Missions," (<i>Palestine Exploration Quarterly</i> 147-3, 2015)
教授 山口 徹 YAMAGUCHI, Toru	オセアニア島嶼世界のジオ考古学 歴史人類学 博物館人類学	Session organizer, "Multi-disciplinary studies of 'islandscape' as a meshwork" in "Anthropology and Geography: Dialogues Past, Present and Future" held (Royal Institute of Anthropology, London, 2020)、「ラロトンガ島の祭祀遺跡タブタブアテア：クック諸島にも届いていたオロ信仰」(『ヒトはなぜ海を越えたのか：オセアニア考古学の挑戦』雄山閣, 2020)、『アイランドスケープ・ヒストリーズ：島景観が架橋する歴史生態学と歴史人類学』(編著, 風響社, 2019)、Revisiting late Holocene sea-level change from the Gilbert Islands, Kiribati, west-central Pacific Ocean (共著, Quaternary Research, 2017)、A review of coral studies of the Ryukyu Island Arc to reconstruct its long-term landscape history (In "Coral Reef Science" Springer, 2016)
教授 渡辺 丈彦 WATANABE, Takehiko	旧石器考古学 日本古代史 文化財行政学	『青森県下北郡東通村 尻労安部洞窟：2001～2012年度発掘調査報告書』(共編著, 六一書房, 2015)、「石器は海峡を越えたか：本州最北端出土旧石器の系譜に関する一試論」(『史学』, 84-1～4, 2015, 三田史学会)、「日本列島旧石器時代における洞穴・岩陰利用の可能性について」(『奈良文化財研究所創立60周年記念論文集 文化財論叢』Ⅳ, 国立文化財機構奈良文化財研究所, 2012)、「日本列島 石の流通史：石材原産地遺跡の視点から」(『特集 日本列島 石の流通史, 月刊文化財』548, 第一法規, 2009)、『お仲間林遺跡の研究：1992年発掘調査』(共編著, 慶應義塾大学民族学考古学研究室, 1995)

国文学分野

国文学専攻は、日本の文学・言語・文化を総合的且つ専門的に探求する場です。現在の専任教員スタッフは、附属研究所斯道文庫を含めて、文献学的学問を志す者が少なくありませんが、個々の教員の関心は一つの研究方法に止まってはいません。研究対象も、一人の教員が多くの分野・作者・作品・文学的語学的事象に関心を抱いています。

国文学の研究対象となる時代は古代から近現代まで、ジャンルは古典に属する和歌・物語から近現代の小説や出版文化に至るまで多種多様です。日本語学も古代語から現代語まで、理論的研究から実証的研究まで多岐に互ります。国文学専攻では、近年の傾向として、中古物語、中世和歌、絵巻物・絵入り本、近代ジェンダー・セクシュアリティ論、形態音韻・文字表記、日本漢文学といった研究が盛んです。

授業は、専任教員・斯道文庫教員・非常勤講師により、それぞれの専門分野を中心として、さまざまな形式で行われています。その多くは、少人数による演習形式を取っています。

一方、大学院の行事としては年2回、5月と11月に国文学研究会を開催しています。これは大学院在籍者・出身者による研究発表を中心に、若手研究者の研鑽の場としての役割を果たしています。また、文学系5専攻の運営する藝文学会でも、6月の大会では大学院生による研究発表が行なわれています。このほか、専任教員の主宰する研究会・読書会も頻繁に開かれています。大学院生の論文発表の場としては、国文学専攻の『三田国文』(年1回)、藝文学会の『藝文研究』(年2回)があります。

大学院修了後は、中学・高校の教員、大学の教員、公共機関の研究員などの専門職に就く者が圧倒的に多く、民間企業に就職する者は極めて少数です。

教員紹介

(2022年度参考、2023年度は変更になる場合があります)

担当者	専門分野	主要著作
教授 石川 透 ISHIKAWA, Tooru	物語文学 説話文学	『慶應義塾図書館蔵 図解御伽草子』(慶應義塾大学出版会, 2003)、『奈良絵本・絵巻の生成』(三弥井書店, 2003)、『御伽草子 その世界』(勉誠出版, 2004)、『奈良絵本・絵巻の展開』(三弥井書店, 2009)、『入門 奈良絵本・絵巻』(思文閣出版, 2010)
教授 小川 剛生 OGAWA, Takeo	中世文学 和歌文学	『二条良基』(人物叢書, 通巻302, 吉川弘文館, 2020)、『兼好法師：徒然草に記されなかった真実』(中公新書, 中央公論新社, 2017)、『中世和歌史の研究：撰歌と歌人社会』(塙書房, 2017)、『武士はなぜ歌を詠むか：鎌倉將軍から戦国大名まで』(角川選書, KADOKAWA, 2016)、『足利義満：公武に君臨した室町將軍』(中公新書, 中央公論新社, 2012)
教授 小平 麻衣子 ODAIRA, Maiko	近代日本文学	『女が女を演じる：文学・欲望・消費』(新曜社, 2008)、『夢みる教養：文系女性のための知的生き方史』(河出書房新社, 2016)、『文芸雑誌『若草』：私たちは文芸を愛好している』(編著, 翰林書房, 2018)、『小説は、わかってくれればおもしろい：文学研究の基本15講』(慶應義塾大学出版会, 2019)、『『文藝首都』公器としての同人誌』(編著, 翰林書房, 2020)
教授 屋名池 誠 YANAIKE, Makoto	日本語学(国語学)	『大阪女子大学蔵蘭学英学資料選』(共編著, 大阪女子大学図書館, 1991)、『横書き登場：日本語表記の近代』(岩波新書, 2003)

日本語教育学分野

慶應義塾大学における日本語教育は1958(昭和33)年に開始されました。その後1972(昭和47)年、学生ならびに修士課程修了者を対象に、日本語教師養成を目的とした「日本語教授法講座」が、本塾国際センターに開設されました。この講座は、2003(平成15)年に改編によって日本語・日本文化教育センター設置「日本語教育学講座」となりますが、約30年にわたり数多くの日本語教育の指導者、研究者を世に送り出してきました。その実績を踏まえ、2007(平成19)年、大学院文学研究科国文学専攻に日本語教育学分野が創設されました。本分野の目的は、高度専門職業人として専門的かつ体系的な知識を備え、優れた教育技能を有する日本語・日本語教育の専門家を養成することにあります。

日本語教員を目指す日本人学生、外国人学生の要望に応えるべく設置された本分野は、大学院から日本語教育学を学ぶ人、現場で日本語教育を経験し日本語研究を希望する人、他分野で取得した修士号とあわせ、日本語教育学でも修士号の取得を目指す人たちに対し、広く門戸を開放しています。

研究活動は、さまざまな理論を教育現場にどのように生かすか、実践をどのように体系化していくかといった、理論と実践を結びつけることに主眼を置いています。主な教授陣は本塾の留学生教育の拠点である、日本語・日本文化教育センターにおいて日本語教育を行っている教員ですので、講義・演習においても理論に偏らない、教育現場の観点を重視した教育・指導が行われています。また、日本語・日本文化教育センターの協力のもと、日本語教育現場の見学、異文化交流など、教育・研究に結びつくさまざまな経験の機会も設けられており、きめ細かい指導が可能となっています。

将来、高度専門職業人としての日本語教育者・研究者を目指す、意欲と熱意のある人を待っています。出願資格、入学試験、カリキュラム、修了要件等は、履修案内と入試要項を参照してください。

教員紹介 (2022年度参考、2023年度は変更になる場合があります)

担当者	専門分野	主要著作
教授 木村 義之 KIMURA, Yoshiyuki	日本語学	『図解日本語』(三省堂、2006)、『図解日本の語彙』(三省堂、2011)、『品詞別学校文法講座 1～8』(明治書院、2014～2016)、『わかりやすい日本語』(くろしお出版、2016)、『図説近代日本の辞書』(おうふう、2017)
教授 村田 年 MURATA, Minori	日本語教育学 計量文体論	『論述文の文体的特徴』(『文化情報学事典』勉強出版、2019)、「文章のジャンル判別に寄与する指標の研究：専門日本語教育への応用」(『コーパスとテキストマイニング』共立出版、2012)、BCCWJに現れた複合動詞「押しつける」(『日本語と日本語教育』48、2020)、「二字漢語「自己」を構成要素とする四字漢語の使用頻度調査-BCCWJを用いて」(『日本語と日本語教育』45、2017)、「国語教科書の中の「女ことば」：小学1年生用教科書(上巻)を資料として」(『日本語と日本語教育』46、2018)

中国文学専攻は、「中国古典文学」「中国現代文学」「中国語学」を大きな3本の柱としていますが、中国の歴史、哲学、社会、芸能などを含めた、古代から現代にいたるまでの幅広い中国の文化全般を研究対象としています。

歴史を遡れば、本専攻は中国文学研究の泰斗・奥野信太郎の学風に導かれ、伝統を形成してきました。専任教員の専門分野は、古典文学、現代文学、語学に分かれています。また、特殊な研究領域においては、優れた業績と指導力を有する斯界の専門家を非常勤講師として招き、あらゆる領域をカバーできる体制を整えています。

修士課程では、中国文化全般について幅広く学ぶと同時に、自ら選択したテーマを深く掘り下げて追究し、修士論文を作成します。後期博士課程では、修士課程で獲得した基礎知識を土台に、より専門的な研究を行い、学会にその成果を発表します。

近年の学生の意欲的な姿勢のあらわれとして、在学中に長期留学する傾向が強くなっています。大半の学生が1年ないし2年の留学を経験し、きわめて大きな成果をあげています。留学先は主に中国本土や台湾などで、現地の大学で専門の研究に取り組むほか、中国語運用能力の向上をはかり、また現地での生活を通して中国の風俗、習慣、文化などについての理解を深めています。

修了後の主な進路は、中学・高校の教員や大学の教員、研究機関の研究者などです。開設以来、中国語学・中国文学の教育・研究分野で活躍する人材を数多く輩出してきました。世界における中国の躍進に伴い、官公庁や一般企業で活躍する人材も増えており、今後の展望も大きく開かれています。スタッフ一同、意欲ある皆さんとの出会いを期待しています。

教員紹介 (2022年度参考、2023年度は変更になる場合があります)

担当者	専門分野	主要著作
教授 浅野 雅樹 ASANO, Masaki	中国語学	「中国語学習辞書の「用例」についての考察：二音節の実詞に対する語彙的性質からの視点を中心に」(『中国研究』第13号、2020)、「日本國內學生的華語詞彙知識調査與考察」(『第5回全球華語文教師與研究生論壇論文集』2016)、「中国語教育における「反義語」を用いた語彙指導について」(『慶應義塾外国語教育研究』第12号、2016)、「類義語をどのように教えるか：弁別法の使用を中心に」(『中国語教育』第9号、2011)
教授 杉野 元子 SUGINO, Motoko	中国近現代文学 日中比較文学	「漱石と老舎：二人の文学者の英国体験をめぐって」(日本比較文学会編『滅びと異郷の比較文化』思文閣出版、1994)、「悔恨と悲哀の手記：鲁迅『傷逝』と森鷗外『舞姫』」(『比較文学』第36巻、1994)、「柳雨生と日本：太平洋戦争時期上海における「親日」派文人の足跡」(『日本中国学会報』第55集、2003)、「路易士と日本：戦時上海における路易士の文学活動をめぐって」(『比較文学』第52巻、2010)
教授 高橋 智 TAKAHASHI, Satoshi	中国古典文学 中国版本学 日本漢籍受容史	『室町時代古鈔本『論語集解』の研究』(汲古書院、2008)、『書誌学のすすめ』(東方書店、2010)、「内閣庫存書目について：中国版本学資料研究」(『斯道文庫論集』46号、2012)、「京師図書館善本簡明書目・稿本について：中国版本学資料研究」(『斯道文庫論集』47号、2013)、『海を渡ってきた漢籍：江戸の書誌学入門』(日外アソシエーツ、2016)

英文学・米文学・英語学(英語史、言語学)及びそれぞれの関係領域を研究対象とする英米文学専攻では、西脇順三郎・厨川文夫の伝統に連なる中世英文学・英語学、大橋吉之輔の衣鉢を継ぐアメリカ文学を中心に、伝統を踏まえながら、現代の最も新しい分野、例えば書物史や現代批評理論なども視野に入れ、国際的な学問的貢献を目指しています。

修士課程2年間で基本的なディシプリンを積み、後期博士課程の3年間で博士論文を提出できるように、きめ細かな指導を行っています。担当者は教授8名(英文学4名、米文学2名、英語史・言語学2名)で、他に文学部、言語文化研究所、他学部所属の専任教員も授業を担当しています。多彩な設置科目はすべて選択科目で、学生の研究領域に合わせて指導教員と相談しながら履修するシステムが確立しています。必要に応じて学界の第一線で活躍する学者を国内外から講師として迎えます。日本英文学会をはじめとする各分野の主要学会での研究発表、レフェリー制度をもつ学術雑誌への投稿、共同研究に基づく共著の執筆、外国への留学とそこでの学位取得に関するガイダンスの機会も数多くあります。さらに、博士号請求論文のレベルを高く維持するために、しばしば著名な外国人研究者を審査員に招いています。その審査を通過した論文は続々と公刊されており、慶應義塾での修士・博士論文が海外で出版されたり国際的な学術誌に採択されることは、分野を問わず珍しくありません。

また、後期博士課程在学中には日本学術振興会特別研究員としての採用や学位取得のための海外留学を支援し、課程修了後は非常勤講師として教歴を身に付けてもらうようにしています。ほとんどの場合、学位取得後は大学の常勤教員として就職します。

現在学内で進んでいる大学院生を交えた研究プロジェクトには、西洋中世写本や初期刊本を対象としたテキスト校訂や書物史研究のためのプロジェクト、慶應アメリカ学会におけるアメリカ研究プロジェクトなどが含まれています。

学位請求論文の概要や専任教員の研究内容については、ホームページで紹介されています(<https://web.flet.keio.ac.jp/englit/>)。

教員紹介 (2022年度参考、2023年度は変更になる場合があります)

担当者	専門分野	主要著作
教授 井出 新 IDE, Arata	初期近代イギリス文学・演劇	The Cambridge Guide to the Worlds of Shakespeare: Shakespeare's World, 1500-1660 (共著, Cambridge University Press, 2016)、Corpus Christi College, Cambridge in 1577: Reading the Social Space in Sir Nicholas Bacon's College Plan(Transactions of Cambridge Bibliographical Society, XV, 2, 2015)、John Fletcher of Corpus Christi College: New Records of His Early Years (Early Theatre: A Journal Associated with the Records of Early English Drama 13.2, 2010)、The Jew of Malta and the Diabolic Power of Theatrics in the 1580s (Studies in English Literature 1500-1900 46.2, 2006)、『シェイクスピア大全』(共編著, 新潮社, 2003)
教授 井上 逸兵 INOUE, Ippei	英語学 社会言語学 談話分析	『ことばの生態系：コミュニケーションは何でできているか』(慶應義塾大学出版会, 2005)、『グローバル・コミュニケーションのための英語学概論』(慶應義塾大学出版会, 2015)、『社会言語学』(編著, 朝倉書店, 2017)、『伝わるしくみと異文化間コミュニケーション』(南雲堂, 1999)、『おもてなしの基礎英語』(NHK出版, 2019)
教授 大串 尚代 OGUSHI, Hisayo	アメリカ文学 女性文学	『ハイブリッド・ロマンス：アメリカ文学における捕囚と混淆の伝統』(松柏社, 2002)、『立ちどまらない少女たち：く少女マンガ>的想像力のゆくえ』(松柏社, 2021)、“Little House in the Far East: The American Frontier Spirit and Japanese Girls’ Comics” The Japanese Journal of American Studies 27 (2016)、“American Literature in Japanese Shōjo Comics.” Oxford Research Encyclopedia of Literature, May 29, 2020, Oxford UP、『マニフェスト・デスティニーの時空間：環大陸的視座から見るアメリカの変容』(共著, 小島遊書房, 2020)
教授 高橋 勇 TAKAHASHI, Isamu	近現代イギリス文学 ファンタジー文学	『中世主義を超えて：イギリス中世の発明と受容』(松田隆美・原田範行・高橋勇 編著, 慶應義塾大学出版会, 2009)、ウィリアム・ブレイズ『書物の敵』(高橋勇 訳, 高宮利行 監修, 八坂書房, 2004)、「永遠の墓所 パイロン、シェリーのローマ」『ローマ：外国人芸術家たちの都』(佐藤直樹 編, 西洋近代の都市と芸術 1, 竹林舎, 2013)、「『書物狂』リチャード・ヒーバーとその蔵書」『名だたる蔵書家、隠れた蔵書家』(佐藤道生 編, 慶應義塾大学文学部, 2010)、「中世主義の系譜」『中世イギリス文学入門 研究と文献案内』(高宮利行・松田隆美 編著, 雄松堂出版, 2008)
教授 原田 範行 HARADA, Noriyuki	近現代イギリス文学 比較文学 出版文化史 文学教育論	『「ガリヴァー旅行記」徹底注釈(注釈篇)』(共著, 岩波書店, 2013)、『風刺文学の白眉：「ガリバー旅行記」とその時代』(NHK出版, 2016)、『セクシュアリティとヴィクトリア朝文化』(共編著, 彩流社, 2016)、“Literature, London, and Lives of the English Poets,” London and Literature, 1603-1901 (共著, Newcastle upon Tyne: Cambridge Scholars Publishing, 2017)、“Johnson, Biography, and Modern Japan,” Johnson in Japan(共著, Lewisburg, Penn.: Bucknell UP, 2020)．
教授 堀田 隆一 HOTTA, Ryuichi	英語史 歴史言語学	“The Spread of the *s*-Plural in Early Middle English: Its Origin and Development.” (Studies in English Literature, 79.2, 2002)、The Development of the Nominal Plural Forms in Early Middle English (Hituzi Syobo, 2009)、『英語史で解きほぐす英語の誤解：納得して英語を学ぶために』(中央大学出版部, 2011)、“The Diatonic Stress Shift in Modern English.”(Studies in Modern English 29 , 2013)、『英語の「なぜ?」に答えるはじめての英語史』(研究社, 2016)
教授 松田 隆美 MATSUDA, Takami	中世イギリス文学	Death and Purgatory in Middle English Didactic Poetry(Cambridge: D. S. Brewer, 1997)、『ヴィジュアル・リーディング：西洋中世におけるテキストとパラテキスト』(ありな書房, 2010)、Performance, Memory, and Oblivion in the Parson's Tale(The Chaucer Review, 51, 2016)、『煉獄と地獄：ヨーロッパ中世文学と一般信徒の死生観』(ぶねうま舎, 2017)、『チョーサー カンタベリー物語：ジャンルをめぐる冒険』(慶應義塾大学出版会, 2019)

独文学専攻が研究対象としているのは、ドイツ語圏の広義の文化です。時代は中世から現代まで、内容はドイツ語学理論、文学理論、文化理論、テキスト講読、口語・文語表現演習、中世文化研究などで、カリキュラムが構成されています。伝統的な研究法から最新の研究動向にいたるまで柔軟に目配りしつつ、優れた研究者を育成し、高度な専門知識を身に付けた人材を社会へ送り出すことを目指しています。

修士課程においては、徹底的にドイツ語と学問的思考法の習熟を目指します。文学系、文化系、言語学系、哲学・思想系の各テキストの読解と討論、学問的議論のための実践的な口語演習、修士論文作成のためのドイツ語による論文執筆訓練などを課しています。また、少人数のクラスでは教員と学生の間で密度の高い授業が行われます。後期博士課程においては、主に博士論文執筆のための授業が行われ、指導教授による指導と並行して自主研究を進めることとなります。独創的な発想や発見を根底に据えた、個性的な博士論文の作成が期待されます。博士学位の取得に関しては、本専攻の定めた規定に準じて審査が行われるので、別途資料を請求していただきます。

また、慶應義塾大学はドイツ学術交流会の一般考查による留学や、ベルリン自由大学、ボン大学、ドレースデン工科大学、ザールブリュッケン大学、デュッセルドルフ大学、ジューゲン大学、ライプツィヒ大学、アーヘン工科大学などとの交換協定による留学生派遣を行っています。オーストリアやスイスの大学へ留学する学生もいます。独文学専攻とドイツ語圏主要大学との連携の強化により、絶好の留学環境にあると言えるでしょう。

以上のように、本専攻では多岐にわたる研究分野、母語話者によるドイツ語能力の陶冶、少人数制による個別指導の徹底、ドイツ語圏の諸大学との連携強化と留学制度の整備などを柱に活動しています。学生の進路は、公務員や一般企業への就職のほか、研究者となる者も数多くいます。

教員紹介 (2022年度参考、2023年度は変更になる場合があります)

担当者	専門分野	主要著作
教授 川島 建太郎 KAWASHIMA, Kentaro	現代ドイツ文学・思想	『メディア論：現代ドイツにおける知のパラダイム・シフト』(共著, 御茶の水書房, 2007)、Autobiographie und Photographie nach 1900: Proust, Benjamin, Brinkmann, Barthes, Sebald. Bielefeld (transcript, 2011)、Christoph Ransmayrs Arbeit am Zeugen – Jean Améry und der Roman "Morbus Kitahara" (Beiträge zur österreichischen Literatur. Jg. 33, 2017)、Recht und Literatur in Benjamins Essay "Franz Kafka"(Neue Beiträge zur Germanistik. Bd.16, Heft 1. 2017)、Metamorphosis as Origin—Koji Yamamura's Short Animation "Franz Kafka's A Country Doctor"(Arts(MDPI) 8 (2) 4. 2019)
教授 桑川 麻里生 KUMEKAWA, Mario	近現代ドイツ文学・思想 文化史 スポーツ史	『サッカーのエスノグラフィーへ』(共編著, 社会評論社, 2002)、『ゲーテ』(共著訳, 集英社, 2015)、『西洋教育思想史』(共著, 慶應義塾大学出版会, 2016)、『Pazifikismus.Poetiken des stillen Ozeans』(共編著, Könighausen, 2018)、『サッカー審判員フェルティヒ氏の嘆き』(翻訳, 三修社, 2012)
教授 香田 芳樹 KODA, Yoshiki	中世ドイツ文学	マクデブルクのメヒティルト『神性の流れる光』(翻訳, 創文社, 1999)、『マイスター・エックハルト：生涯と著作』(創文社, 2011)、『真理を語る真理：マイスター・エックハルトの神秘的聖書解釈』(『イスラーム哲学とキリスト教中世』, 岩波書店, 2012)、『(新しい人間)の設計図：ドイツ文学・哲学から読む』(編著, 青灯社, 2015)、『魂深き人びと』(青灯社, 2017)
教授 田中 愼 TANAKA, Shin	ドイツ言語学 言語理論	Grammatische Funktionen aus Sicht der japanischen und deutschen Germanistik.(共編著, Helmut Buske, 2017)、Linguistische Sprachphilosophie. 日本独文学会研究叢書104(共編著, 日本独文学会, 2014)、『講座 ドイツ語学 第一巻：ドイツ語のシンタクス』(共著, ひつじ書房, 2014)、Deixis und Anaphorik: Referenzstrategien in Text, Satz und Wort(Linguistik – Impulse und Tendenzen 42, Walter de Gruyter, 2011)、The "passive" voice in Japanese and German: argument reduction and argument extension.(Linguistics 44-2, 共著, Mouton de Gruyter, 2006)
教授 平田 栄一朗 HIRATA, Eiichiro	演劇学 ドイツ演劇	『文化を問い直す：舞台芸術の視座から』(共編著, 彩流社, 2021)、『在と不在のパラドックス：日欧の現代演劇論』(三元社, 2016)、『ドラマトウルク：舞台芸術を進化／深化させる者』(三元社, 2010)、Theater in Japan (共編著, Theater der Zeit, 2009)、『現代ドイツのパフォーミングアーツ』(共著, 三元社, 2006)

仏文学専攻は、修士課程が1951年(昭和26年)に、後期博士課程が1953年(昭和28年)に創設されました。すでに約70年の歴史と伝統を有することになります。院生は本塾文学部通学課程からの進学者のみならず、通信課程卒業生や他大学出身者なども広く受け入れています。学部を卒業し就職した後、一定の年月を経て大学院で再び学ぶケースもあります。

常時8名前後の教員が授業と論文指導に当たっています。日本人教員は全員がフランスで博士号を取得しています。担当教員の専門は文学と言語学を中心に幅広い分野にわたり、院生の多様な関心や要求に的確に対応できる態勢が整っています。また、院生の研究活動や留学に必要なフランス語の運用能力を育成するため、フランス人訪問教授による徹底した口頭発表の訓練や作文指導も行われています。

修士課程のカリキュラムには独自の工夫があり、院生にはすべての設置科目を履修するように指導しています。専門研究の狭い世界に閉じこもることなく、開かれた視野でフランス文学やフランス語学に接する態度が培われることでしょう。その成果は修士論文として結実します。

後期博士課程の院生は、明確な研究テーマと方法論により独創性の高い研究活動を続けます。最終的には博士論文の作成と提出、博士の学位取得を目標とします。専攻内で定めた「博士学位請求論文の申請および審査に関する内規」に従い、博士論文が完成するまで指導教授が責任をもって指導に当たります。

毎年一回、秋頃に研究発表会が開催され、修士課程の院生は修士論文の構想を述べ、後期博士課程の院生は研究の進捗状況を報告することが慣例となっています。また、研究成果を発表する場として、査読付きの論文集を年一回刊行しています。その編集作業は後期博士課程在学中の院生が担当し、さまざまな業務を体験できるよい機会となっています。

本専攻で扱う学問領域の性質上、院生には留学を積極的に勧めています。これまでに、本塾交換留学制度によりエコール・ノルマル・シュペリウール(高等師範学校)、パリ第3大学(ソルボンヌ・ヌーヴェル)、ニース大学、トゥールーズ大学などに留学生を送り出してきました。フランス政府給費留学生試験に合格し留学した院生も数多くいます。

修了生は本塾をはじめさまざまな大学で教育や研究に従事しています。高等学校の教員になる者、一般企業や公的機関で働く者もいます。文壇や詩壇などでいわゆる三田派の伝統に連なる執筆活動を展開する小説家、詩人、批評家も少なくありません。

教員紹介（2022年度参考、2023年度は変更になる場合があります）

担当者	専門分野	主要著作
教授 市川 崇 ICHIKAWA, Takashi	現代フランス文学及び思想	La Politique du mythe : Débat virtuel entre Bataille et Drieu , Cahiers Bataille, no. 3, Éditions les Cahiers, 2016、「時間、自己触発、固有性：超越論的感性論をめぐるジャン＝リュック・ナンシーとジャック・デリダの討論」(『人文学報フランス文学』513-15、首都大学東京人文学研究科、2017)、Généalogie de l'affirmation de la pensée négative , A. Milon(ed.) , Leçon d'économie générale : l'expérience-limite chez Bataille-Blanchot-Klossowski, Presses Universitaires de Paris Nanterre, 2018、「時間、エクリチュール、政治：ジョルジュ・バタイユとジャン＝リュック・ナンシー」(ジャン＝リュック・ナンシー・市川崇・柿並良佑ほか共編著『多様体』no.2、総特集ジャン＝リュック・ナンシー、月曜社、2020)、「ジャン＝リュック・ナンシーの「不死性」」(『思想』12月号 no.1172、追悼 ジャン＝リュック・ナンシー、岩波書店、2021)
教授 片木 智年 KATAGI, Tomotoshi	おとぎ話論 17世紀フランス文学・演劇	『ペロー童話のヒロインたち』(せりか書房、1996)、『星の王子さま学』(慶應義塾大学出版会、2005)、『少女が知ってはいけないこと：神話とおとぎ話に描かれた〈女性〉の歴史』(PHP研究所、2008)、Des versions Perrault-Lhéritier à quelques caractéristiques de Dame Holle(Dominique P.-L. (dir.) , L'écho des contes, PUR, 2019) Éco-animisme dans les <i>fantasy anime</i> de Hayao Miyazaki — <i>Princesse Mononoké, Le Voyage de Chihiro, Ponyo sur la falaise</i> (<i>Fantasy art and studies</i> 5, Têtes imaginaires, 2018)
教授 喜田 浩平 KIDA, Kohei	フランス語学	<i>Cognition et émotion dans le langage</i> (共編著、慶應義塾大学出版会、2006)、『ブチ・ロワイヤル和仏辞典第3版』(執筆協力、旺文社、2010)、Prédictat argumentatif et concept <i>ad hoc</i> , <i>Travaux de linguistique</i> 70、2015、L'argumentativité de la métaphore dans une sémantique argumentative », Marc Bonhomme et al. (dir.) , <i>Métaphore et argumentation</i> , Editions Academia, 2017、L'argumentation et les descriptions définies, <i>Discours</i> 25, 2019.
教授 築山 和也 TSUKIYAMA, Kazuya	19世紀フランス文学	L'imagination chez Baudelaire, mouvement et construction (RHLF, 2019, n°2)、Le naturel dans la théâtralité baudelairienne (Romantisme, n°179, 2018)、Le poème en prose chez Huysmans : contre la bourgeoisie (La Licorne, n°90, Presses Universitaires de Rennes, 2010)、アラン・コルバン『知識欲の誕生』(翻訳、藤原書店、2014)、ミシェル・ヴィノック『知識人の時代 バレス／ジッド／サルトル』(共訳、紀伊國屋書店、2007)
教授 岑村 傑 MINEMURA, Suguru	近現代フランス文学	『フランス現代作家と絵画』(共編著、水声社、2009)、ジュネ『公然たる敵』(共訳、月曜社、2011)、 <i>Dictionnaire Jean Genet</i> (共著、Honoré Champion、2014)、タハール・ベン・ジェルーン『嘘つきジュネ』(単訳、インスクリプト、2018)、「刻銘と心臓：メトレの誕生(1)」(『藝文研究』第119号第2分冊、2020)

図書館・情報学分野

1967(昭和42)年に設置された図書館・情報学専攻は、情報システム、情報メディア、情報検索を研究の三つの柱としています。

情報システムは、情報を扱う組織全体を含めた広い概念で、方法的対象として図書館を扱います。図書館は資料を収集、組織化、保存、提供する機能を持ち、書誌コントロールや情報サービスなどの観点からも捉えることができます。また、図書館とその設置機関との関係をめぐる法的および経営的な問題、提供されるサービスと利用者コミュニティとの関係をめぐる社会的、心理的問題などが研究テーマになります。

情報メディアは、欧米の情報学の中で発展した学術コミュニケーション研究と計量書誌学に加え、情報探索行動の問題を含めた独自の研究領域を持っています。最近では、デジタルメディアの特性やそれらの利用者に関する研究、組織やウェブにおける人々の行動の理解、情報メディアを含めた知識の共有・創造・蓄積・サービスのデザインを考える研究も行われています。隣接領域である書誌学や出版、メディア論やメディア研究などの課題に取り組むことも可能です。

情報検索は、情報検索理論から情報組織化、データベース、情報検索システムまで、全体的な観点から研究課題を扱います。最近では、サーチエンジンの高度化、検索実験における評価方法、大量の文書の自動分類などの研究、あるいはメタデータ、統制語彙、分類法等とそれらの組み合わせからなる情報組織化／情報資源組織化の高度化などの研究が行われています。

修士課程の入学者は例年5人と少人数です。指導教授だけでなく、専攻の他の教員、修了生も含め和やかな雰囲気 で研究を進めていくことが可能です。修了後は、国立国会図書館や大学図書館などへの就職、情報通信関連企業への就職、後期博士課程への進学が多数を占めます。

後期博士課程では、博士学位の取得を目的とした論文作成指導が中心となります。査読のある学会誌に論文を発表した後、学位論文検討会で発表を積み重ねることを通じて、学位論文を完成させるように指導しています。博士課程修了後は、大学や研究組織の教員、研究職を目指す方が大部分です。

なお、2006(平成18)年からは、後期博士課程の科目を社会人の方に向けて夜間にも開講しています。

情報資源管理分野

社会の環境変化に伴い、図書館業務や情報サービスに従事する専門職のリカレント教育の必要性が高まっています。そこで2004(平成16)年、図書館・情報学専攻における教育の実績に基づき、社会的ニーズに応えるために情報資源管理分野を設けました。大学卒業後3年以上、図書館等における実務経験あるいは司書資格を有する方を対象としています。2015(平成27)年度文部科学省「職業実践力育成プログラム」に認定され、厚生労働省の教育訓練給付金(専門実践教育訓練)の支給対象ともなりました。

本分野は、最新の情報技術や経営管理を中心に、情報資源組織化や図書館評価、学術情報流通、レファレンスサービスなどについての知識や技能を修得し、問題解決能力の向上を図ることを目的としています。

現職者向けに平日夜間(月曜日と木曜日)と土曜日午後に開講しています。例年7-8人の入学者があります。仕事を持ちながら修士の学位を目指す方が大半であるため、結束力もあり、修了後も交流が盛んです。

教員紹介（2022年度参考、2023年度は変更になる場合があります）

担当者	専門分野	主要著作
教授 安形 麻理 AGATA, Mari	書誌学 図書館・情報学	「利用者による特殊コレクション資料の撮影の許可：北米の研究図書館における動向」(池谷のぞみほか編著『図書館は市民と本・情報をむすぶ』勁草書房、2015)、「日本の図書館におけるマイクロ資料の保存の現状：質問紙による大学図書館と都道府県立図書館の悉皆調査から」(共著『日本図書館情報学会誌』vol.60、no.4、2014)、「聖書に見る本文の構造の視覚的な提示方法」(共著、松田隆美編『貴重書の押絵とバラテキスト』慶應義塾大学出版会、2012)、『デジタル書物学事始め：グーテンベルク聖書とその周辺』(勉誠出版、2010)、Agata, M.; Agata, T. Statistical analysis of the Gutenberg 42-line Bible types. The Papers of the Bibliographical Society of America. 2021, 115(2) . (DOI: 10.1086/713981)
教授 池谷 のぞみ IKEYA, Nozomi	エスノメソドロジー 情報行動 知識の社会学 サービスデザイン	「現象学にインスピレーションを受けたエスノメソドロジーの方向性：三人称現象学を中心に」(『現象学と社会科学』no.4、2021)、「社会課題とエスノメソドロジー研究との関わり：救急医療におけるワークの研究を中心に」(『年報社会学論集』no.32、2019)、「Hybridity of hybrid studies of work: Examination of informing practitioners in practice. Ethnographic Studies, 2020, no.17、Social Distribution of Knowledge in Action: The Practical Management of Classification. In J.Strassheim, H.Nasu (Eds.) , Relevance and Irrelevance. De Gruyter. 2018、『図書館は市民と本・情報をむすぶ』(共編著、勁草書房、2015)
教授 岸田 和明 KISHIDA, Kazuaki	情報検索	Technical issues of cross-language information retrieval: a review. Information Processing and Management, Vol.41, 2005、High-speed rough clustering for very large document collection. Journal of the American Society for Information Science and Technology, vol.61, 2010、『図書館情報学における統計的方法』(樹村房、2015)、Uncomplicated procedure for thesaurus mapping: Use of stemming, edit distance and vector matching. IPSJ SIG Technical Report. Vol.2018-IFAT-131, 2018、Empirical comparison of word similarity measures based on co-occurrence, context, and a vector space model. Journal of Information Science Theory and Practice, Vol.8, 2020(共著)
教授 倉田 敬子 KURATA, Keiko	学術コミュニケーション 図書館・情報学	『学術情報流通とオープンアクセス』(勁草書房、2007)、Identifying the Complex Position of Research Data and Data Sharing Among Researchers in Natural Science. (co-authored, Sage Open. 2017, 7 (3) , doi.org/10.1177/2158244017717301)、Knowledge structure transition in library and information science: topic modeling and visualization. (co-authored, Scientometrics. 2020, vol.125)、Print or digital? Reading behavior and preferences in Japan. (co-authored, Journal of the Association for Information Science and Technology. 2017.vol.68, no.4)、Remarkable growth of open access in the biomedical field: analysis of PubMed articles from 2006 to 2010(co-authored, PLOS ONE, 2013, vol.8, no.5, 2013)
教授 谷口 祥一 TANIGUCHI, Shoichi	情報組織化 情報資源組織化	A Conceptual Modeling Approach to Design of Catalogs and Cataloging Rules(ひつじ書房、2007)、『メタデータの「現在」：情報組織化の新たな展開』(勉誠出版、2010)、『知識資源のメタデータ 第2版』(共著、勁草書房、2016)、「Understanding and reviewing RDA Vocabularies in RDF: A multi-layer framework approach. Journal of Library Metadata. Vol.20, No.4, 2021、Mapping and Merging of IFLA Library Reference Model and BIBFRAME 2.0. Cataloging & Classification Quarterly. Vol.56, No.5-6, 2018.

■ コースの新設

修士課程「西洋中世研究コース」

文学研究科では、2021年度より、修士課程に「西洋中世研究コース」を設置しました。このコースは、西洋中世(古代末期から16世紀までのヨーロッパおよび隣接するイスラーム文化圏)を対象として領域横断的なテーマで研究をすすめたい大学院生のために、学生が所属する専攻の枠をこえて、各自の研究テーマにもっともふさわしい研究・指導環境を提供しようとするものです。

西洋中世の思想、美術、歴史、文学を所属する専攻内で専門的に研究することは言うまでもなく可能ですが、西洋中世研究はもともと領域横断的な性格を持った分野です。大学院生が構想する研究テーマが複数の領域をまたがることは少なくないでしょう。そうした関心の広がりにもふさわしい柔軟な指導体制のもとで、独創的な研究を後押しすることがコースの目的です。各自の研究テーマに応じて複数の教員が指導することを原則として、所属専攻の指導教授に代わって他分野の専任教員が副指導教員のようなかたちで、修士論文の執筆を指導します。また、領域横断的な演習科目の履修を通じて、西洋中世を研究する他の学生とも交流しつつ、独自のテーマを深化させるための方法論や専門的知識を身につけることができます。本研究科の修士課程を修了し、かつコースの所定の修了要件を満たした場合、修士学位とともに「コース修了証(サティフィケート)」が授与されます。

コースへの参加は、大学院入学後に所属専攻の指導教授および関連するコース担当教員と個別に相談して決めます(コースに特化した入学試験はありません)。入学後ガイダンスを開催しますから、関心のある学生は参加してください。

西洋中世研究コースへの登録は、コースの対象となる専攻に2年以上在学する予定の修士課程の学生を対象としています。現在コースの対象となっている専攻は哲学・倫理学、美学美術史、史学(西洋史)、英米文学、独文学です。コース対象の専攻は、教員側の事情により変化する可能性があるため、年度毎に更新されます。

2022年度に西洋中世研究コースで、論文指導や授業を担当する予定の教員は以下の通りです(詳しい紹介や教員の連絡先は文学部・文学研究科の公式ウェブサイトをご覧ください。<https://www.flet.keio.ac.jp/index.html>と<https://www.gsl.keio.ac.jp/index.html>)

教員		専門
上枝 美典	(哲学倫理学専攻哲学分野 教授)	西洋中世哲学
山内 志朗	(哲学倫理学専攻倫理学分野 教授)	西洋中世・近世思想、倫理学と形而上学
遠山 公一	(美学美術史学専攻 教授)	西洋美術史
藤谷 道夫	(美学美術史学専攻 教授)	イタリア語・イタリア文学、西洋古典学、比較文学
神崎 忠昭	(史学専攻西洋史学分野 教授)	西洋中世史
野々瀬 浩司	(史学専攻西洋史学分野 教授)	スイス宗教改革史、農村社会史
赤江 雄一	(史学専攻西洋史学分野 教授)	西洋中世史
井出 新	(英米文学専攻 教授)	初期近代イギリス文学・演劇
徳永 聡子	(英米文学専攻 教授)	中世イギリス文学、書物史
堀田 隆一	(英米文学専攻 教授)	英語史、歴史言語学
松田 隆美	(英米文学専攻 教授)	中世イギリス文学
香田 芳樹	(独文学専攻 教授)	中世ドイツ文学

■ 大学院生の研究



文学研究科 史学専攻民族考古学分野 後期博士課程1年(2022年度現在)
岩浪 雛子

使用していた道具から化粧の歴史を読み解く

私は近世考古学を専門としており、江戸時代から近代にかけての紅化粧の普及過程について、紅化粧道具の出土様相から研究しています。学部卒業後は、企業博物館へ学芸員として一度就職しましたが、自分の取り組んできた研究をさらに深めたい、またそのために専門的なスキルを伸ばしたいと考え、大学院への進学を決めました。現在は、博物館や埋蔵文化財に関連する仕事に幾つか関わりながら、三田で学んでいます。

大学院の授業では、研究と密接に関わる分野を集中的に勉強しつつ、様々な方から助言を頂くことができます。例えば、私が所属する民族考古学分野の大学院ゼミは、文化人類学や形質人類学などの他分野、あるいは同じ考古学でも異なる時代や地域を専門とする先生や大学院生が参加しており、多角的な視点から研究を見直す貴重な機会となっています。

また、慶應では多様な資料を所蔵しており、それらを研究に利用するための環境が整っています。私自身、慶應の敷地内から出土した陶磁器を実際に手に取って観察し、経験豊富な先生方から手厚い指導を頂きつつ、製作技法や使用方法などを研究しています。

歴史研究はただ一つの正解はなく、そのために悩むこともあります。しかし、誰も目を向けてこなかった新たな視点から歴史を読み解けたときには、純粋に楽しいと感じることも少なくありません。そんな瞬間に立ち会える機会や環境が揃っている慶應の文学研究科を、ひとつの選択肢として考えてみてはいかがでしょうか。



文学研究科 史学専攻東洋史学分野 後期博士課程3年(2022年度現在)
相磯 尚子

世界へつながる研究の場

私は史学専攻東洋史学分野でオスマン帝国の歴史を学んでいます。特に海軍について、停滞期と言われる17世紀に、実際にどのような人々によって構成されていたのか、どのように活動していたのかを明らかにしようと研究に取り組んでいます。

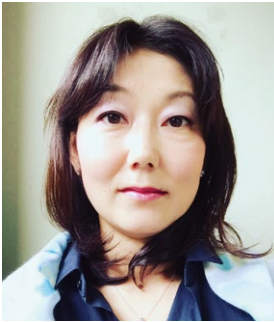
東洋史学では早い段階で「東」と「西」に分かれます。「東」は中国史、「西」はイスラーム世界史の授業を中心に選択し、本人の希望に沿って学べるようになっています。「西」の魅力は、東南アジアや南インドから、中央アジア、中東、地中海世界まで幅広い地域の知識が深まることです。所属している学生の専門内容も多様なので、広い視野で研究に従事することができます。研究テーマも専任教員の先生方と相談しつつ本人が決めるので、自由に研究ができることが強みだと思います。

大学院の授業では英語やトルコ語の研究論文講読に加え、オスマン語やアラビア語の史料講読もあり、歴史研究のためのトレーニングを積むことができます。本塾図書館に所蔵されている中東史関連の書籍は日本でも屈指の豊富さで、理想的な研究環境が整っていると感じます。

専攻では対象とする地域へ留学に行くことが推奨されていて、私は外部の奨学金を得て2年半ほどトルコ共和国に留学していました。実際に現地へ赴くことで視野がぐっと広がりますし、これまで史料で曖昧に読み流していた部分にも別の意味があることに気づけるようになりました。

色々なことに挑戦したいと思う人には特にお勧めの研究の場です。

教員の研究



英米文学専攻
大串 尚代 教授

興味の源泉をみつめて

小学六年生のときに、父に連れられてとある映画のリバイバル上映を観に行きました。わたしは他の新作映画が見たかったのですが、なぜか父は古いミュージカル映画へとわたしを連れて行ったのです。それはロバート・ワイズとジェームズ・ロビンソン監督による『ウエスト・サイド物語』(1961年)でした。若者のフラストレーションとその悲劇を描いたこの映画は、幼い私の心に強烈な印象を残しました。ご存じの通り、この映画はシェイクスピアの『ロミオとジュリエット』を下敷きに、少年グループのジェット団とシャーク団が抗争を繰り広げる一方で、ジェット団のリーダーの友人トニーと、シャーク団のリーダーの妹マリアが恋に落ちる、という物語です。

アメリカは「独立宣言」に書き込まれているように、自由と平等、幸福の追求を国の基本理念にすえています。しかし『ウエスト・サイド物語』では、その内部に人種、経済格差、移民、性差などの問題を含んでいる国であることが描かれています。これをきっかけとして、アメリカという国を知りたくなり、近所の図書館に通い、アメリカに関する様々な書物や文学作品を読むようになりました。もともと『若草物語』『足ながおじさん』『アンクルトムの小屋』や『黄金虫』といった、翻訳された北米の児童文学や推理小説を好んで読んでいましたが、「アメリカ」という国を意識しはじめたのはこの頃からでした。

その頃持った興味が、現在のわたしの研究の原点となっているように思われます。現在わたしの研究は大きく三つの柱に分けられます。ひとつは、19世紀アメリカにおける女性文学の系譜を、人種・性差・宗教の観点から考察するというものです。わたしが博士論文で中心にとりあげた作家は、19世紀に奴隷制反対を唱えたりディア・マリア・チャイルドですが、彼女はまた、厳格なカルヴィニズムに違和感を覚え、寛容な宗教を求めている側面があります。チャイルドや同時代の女性作家たちは、それぞれに異なる方向を向きながらも、共通した時代思潮を反映しているところがあります。性差規範に一見従っているように見えながらも、重層的な解釈を可能にする文学作品を読み解いていくと、彼女らが抱えていた問題とは、実は現代を生きるわれわれにも共通しているのではないかと思わされます。

二つ目は、一九世紀の女性作家にかぎらず、アメリカ文学作品を中心としたジェンダーおよびセクシュアリティ研究です。もともとわたしの学部卒業論文は二〇世紀の男性作家ポール・ボウルズを中心に uptake、彼の作品にみられる男性同性愛表象や女性表象についてでした。これまでもフォークナーやジム・ダッジといった二〇世紀の男性作家についての論文も執筆しています。ボウルズが亡くなる数年前に、タンジールまで会いに行ったことも今ではいい思い出です。

三つ目は、アメリカ文学と日本の少女文化との接点を考えるというものです。先にも述べましたように、アメリカという国の光と影を意識し始めたのは『ウエスト・サイド物語』を見てからですが、アメリカという国があることを知ったのは、北米の児童文学や日本の少女マンガからでした。日本の少女マンガ作品の中には、北米の児童文学からの影響があると思われるものも多く、アメリカ文学の日本での受容史、明治以降の少女文化の形成、第二次世界大戦後のアメリカによる日本の民主化政策などととも、日本の少女文化がいかにアメリカという国を吸収し、少女像の中に内在化させていったのかを研究しています。



国文学専攻 日本語教育学分野
村田 年 教授

大学における専門日本語教育の体系化を目指して

大学における外国人留学生を対象とした日本語教育では、専門分野における学習・研究を目的とする日本語学習者に対して、短期間のうちに論述的な文章を理解し、作成する能力を養成することが要求されます。日本語の母語話者の言語習得とは異なる外国語としての日本語習得過程で、日本語学習者が母語話者に近いレベルで論理的な文章の読解・作成を行う力を身につけていくためには、学習者自身の意欲はもとより、専門分野における学習・研究を支える日本語教育の方法の体系化・効率化が非常に重要だと考えられます。そのような教育上の大きな目標を見据えて、専門分野における日本語教育で重要となる論理的な文章の読解・作成のための基礎的研究を進めています。研究の関心は主に二つあります。一つは、論述文に代表される論理的な文章の特徴とは何かを探るために、文章のジャンル判別に寄与する言語指標を、計量的手法を用いて分析し、論述的文章に特徴的な指標を探索ことです。多変量解析によって指標として有効だと実証されたものには、助詞相当句や接続助詞などの複合辞や複合動詞(後項動詞)があります。もう一つは漢語専門用語の研究です。非漢字圏の日本語学習者にとって、専門分野で学ぶ漢語専門用語は数も多く、学習上、大きな負担になると考えられます。漢語語彙の語構成については、専門用語に限らず、日常用語でも、二字漢語を中心にして、三字漢語、四字漢語というように見ていくと、その語構成上のパターンに規則性があることに気づきます。例えば、経済学分野の三字漢語、四字漢語の専門用語を見ると、少数の共通した二字漢語の語基によって構成されていることがわかります。このような研究結果を基礎データとして教材を開発することによって、非漢字圏の日本語学習者にとっての専門用語の学習の効率化が図られると考えられます。最終的には、上記の研究成果を教育現場に還元し、専門日本語教育における体系的教授方法の構築につなげることを目指しています。

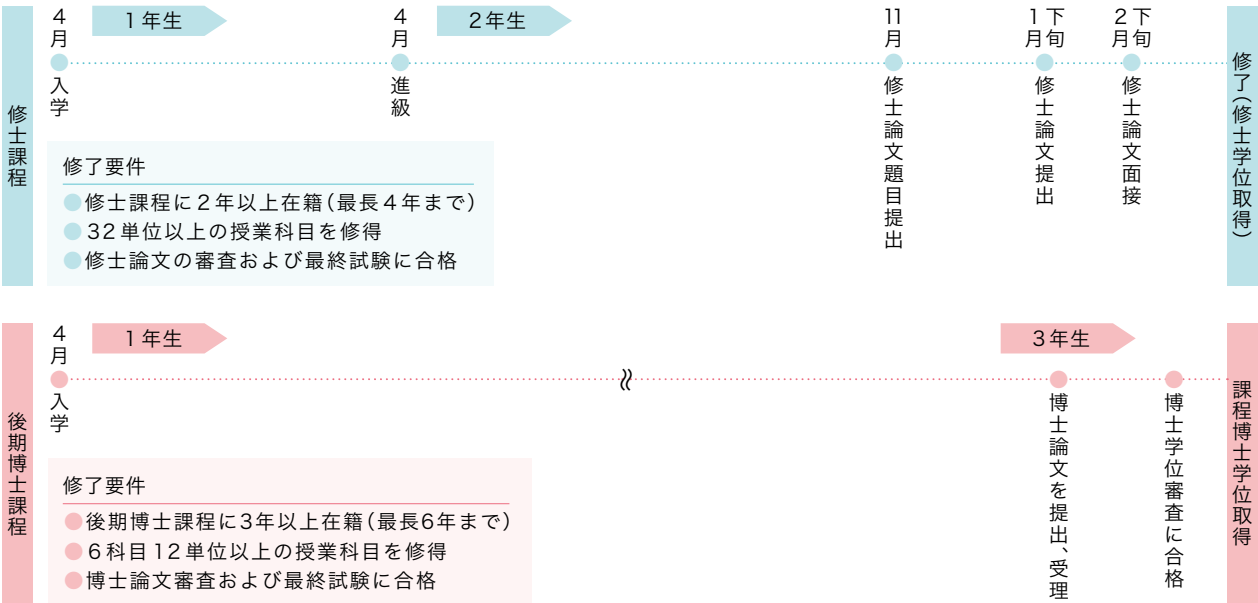
科学研究費(学術振興会)の採択課題

	氏名	採択年度	研究種目	研究課題名
	平田 栄一朗	2021	基盤研究(B)(一般)	シアトロクラシーとデモクラシーの交差——演劇性と政治性の領域横断研究
	佐藤 孝雄	2021	基盤研究(B)(一般)	日本列島に棲息したオオヤマネコに関する学際的調査・研究
	小川 剛生	2021	基盤研究(C)(一般)	菟玖波集の全注釈による、古連歌古俳諧に見る中世社会の慣習風俗についての研究
	石川 透	2021	基盤研究(C)(一般)	奈良絵本・絵巻と『ガリバー旅行記』との関係についての研究
	香田 芳樹	2021	基盤研究(C)(一般)	ハビトゥスの歴史的・文化史的考察
	遠山 公一	2020	基盤研究(B)	彫刻と色彩——彫刻概念の歴史的検証
	小平 麻衣子	2020	基盤研究(C)	日本のファンシーをめぐる1970年代の女性文化再編の研究—サンリオ出版を中心に
	松田 隆美	2020	基盤研究(C)	15世紀英文学における韻文「聖書パラフレーズ」のジャンルの変容に関する研究
	井出 新	2020	基盤研究(C)	ロバート・グリーンズの改心物語とノリッジにおけるピューリタン人脈に関する研究
	安藤 広道	2020	基盤研究(C)	アジア太平洋戦争期の戦争遺跡における公共考古学的研究
	谷口 祥一	2020	基盤研究(C)	著作典拠コントロール支援を指向した著作の同定・共有システムの構築
	倉田 敬子	2019	基盤研究(B)	オープンサイエンス時代の学術コミュニケーション変容に関する総合的研究
	エアトル ヴォルフガング	2018	基盤研究(C)	The hidden connection between Kant and scholasticism
	望月 典子	2018	基盤研究(C)	ニコラ・ブッサンの視覚論 — 近世フランスにおける「タブロー」の成立と展開
	石川 透	2018	基盤研究(C)	丹緑本の基礎的研究
	屋名池 誠	2018	基盤研究(C)	本土諸方言・時代語の動詞・形容詞の活用・アクセント活用体系の実証的・理論的研究
	後藤 文子	2018	挑戦的研究(萌芽)	クロス・ディシプリナリー学としての「庭園芸術学」の構築
	山口 徹	2017	基盤研究(A)	オセアニア環礁社会を支えるタロイモ栽培の天水田景観と気象災害のジオアーケオロジー
	平田 栄一朗	2017	基盤研究(B)	越境文化演劇研究——異他の視点からの演劇文化論
	中島 圭一	2017	基盤研究(B)	日本中世貨幣史の再構築—学際的な中世貨幣学の確立に向けて
	井奥 成彦	2017	基盤研究(B)	醸造業による農村工業化と和食文化の形成に関する地域比較研究
	谷口 祥一	2017	基盤研究(C)	エージェントと著作等に対する典拠コントロール支援用統合型典拠データベースの構築
	大串 尚代	2017	基盤研究(C)	日本の少女文化におけるアメリカ表象の歴史的意義
	小川 剛生	2017	基盤研究(C)	郷土史料を活用した戦国大名文芸の注釈と研究—上杉氏・武田氏を中心に
	小平 麻衣子	2017	基盤研究(C)	文芸雑誌『文藝首都』における新人育成と文壇ネットワーク形成に関する総合的研究
	井出 新	2017	基盤研究(C)	枢密院顧問官フランシス・ウォルシンガムと詩人庇護に関する歴史的研究
	野々瀬 浩司	2017	基盤研究(C)	宗教改革期スイスにおける都市共同体の構造に関する社会史的研究
	佐藤 孝雄	2016	基盤研究(B)	本州北部更新世人類集団の資源利用に関する学際的調査・研究
	松田 隆美	2016	基盤研究(C)	中英語宗教文学における予定説の解釈と受容に関する研究
	安藤 広道	2016	基盤研究(C)	軍事遺跡の教育・学習資源化をめぐる実践的研究
	池谷 のぞみ	2015	基盤研究(B)	市民の健康支援のための価値互酬型サービスを支える知識共同体の構築

(2021年12月現在、過去7年間)

学位

学位取得のプロセス



学位授与数 [2022年4月1日現在]

修士						
年度	学位	哲学	美学	史学	文学	日本語教育学
2019		6	8	6	20	3
2020		3	6	9	21	3
2021		9	4	15	26	1

博士					
年度	学位	哲学	美学	史学	文学
2019		2	1	1	6
2020		1	1	0	3
2021		3	0	1	5

修士論文・博士論文のテーマ (最近のものより抜粋)

- ### 修士論文

 - フッサールの自我論的転回
 - ジョン・ロックの神学的倫理思想と所有権論
 - 尊星王像成立考―冠の動物表象の解明を中心に―
 - 倉敷紡績株式会社の労務管理―職工村構想を中心として―
 - 大ユーリア追放事件再考―ディオニューソスの政治利用の観点から―
 - ラボロアイネーションによる遺骨副葬品返還と先住権をめぐる諸活動―歴史実践としての側面を中心に―
 - 安岡章太郎『流離譚』の方法―歴史記述の運動性―
 - 程度強調を表す語構成要素に関する研究
 - A Familiar Stranger: The Man from U.N.C.L.E. and the Russian Hero in the Cold War Era
 - ドイツ語体験話法の形態と機能―言語行為としての体験話法―
 - バタイユにおける主体の消失と生成について
 - 子どもを持つがん患者の課題解決における情報行動
- ### 博士論文

 - トマス・アキナスにおける類比―どのようにして神を語りうるか―
 - 中世和歌表現論 ―題詠と典拠―
 - 世紀転換期文学空間におけるニーチェ思想受容と宗教言説の位相―美的生活論争から永井荷風へ―
 - 創発する談話―構文の中の姿、構文としての姿―
 - 日本における教養小説―比較文学と歴史的・社会科学的背景に対する考察―
 - ジル・ドゥルーズにおける法の問題―法権利と自己の生成をめぐる―
 - 発見される意味 合成性原理の意味論的・メタ意味論的研究
 - 後期マムルーク朝有力官僚の生存戦略―ザイン・アッ＝ディーン・イブン・ムズヒルの家系・経歴・パトロネージ―
 - 川端康成作品における〈幻想〉の構造

進路・留学

文学研究科修了生の進路

大学院文学研究科における過去5年間の修士課程修了者は約300名、後期博士課程修了者は約50名にのびります。それぞれが自分の専門的知識とスキルを活かして様々な道に進んでいます。

例年、修士課程修了者のおよそ3分の1が、続けて後期博士課程へ進学しています。修士課程を修了して社会へ出た人の進路としては、中学校・高等学校の教員(社会、国語、英語など)、博物館・美術館の学芸員、出版社・新聞社・放送局などマスコミへの就職が一般的です。また、語学や情報処理の専門的知識を活かし、一般企業へ就職する人もいます。

後期博士課程修了者・単位取得退学者のうち、ほぼ半数が国内の大学で専任の研究職についていますが、なかには海外の大学の専任者として教鞭を執っている人もいます。大学などの非常勤講師や研究員となったケースも含めると、ほとんどが研究を続けています。また、博物館・美術館の学芸員、高等学校の教員、新聞社や出版社に就職した人も数多くいます。

また、大学院文学研究科は留学にも力を入れています。慶應義塾大学には、130をこえる海外の大学・大学院と交換留学制度があります。多くの学生が、これらの制度を利用して、また、世界各国の国費留学制度を利用するなどして、在学中や修了後に留学しています。

文学研究科修士課程修了者の主な就職先 (2018年度～2020年度修了者)

愛知県、学校法人麻布学園、学校法人新井学園、株式会社イオン銀行、エスト・ウエストオークションズ株式会社、大阪瓦斯株式会社
学校法人開智学園、株式会社カケハシスカイソリューションズ、神奈川県、株式会社ギャラクシィ、九州電力株式会社、
京セラコミュニケーションシステム株式会社、株式会社クロス・マーケティング、慶應義塾、株式会社幻冬舎メディアコンサルティング
株式会社コーエーテクモホールディングス、学校法人五島育英会、公益財団法人滋賀県文化財保護協会、静岡県、株式会社小学館、墨田区
学校法人清泉女子大学、ソーバル株式会社、公益財団法人千葉市教育振興財団、学校法人土浦日本大学学園、帝人フロンティア株式会社
株式会社デジタルガレージ、学校法人桐蔭学園、学校法人東海大学、国立大学法人東京医科歯科大学、国立大学法人東京大学
株式会社図書館流通センター、国立大学法人新潟大学、弁護士法人西村あさひ法律事務所、株式会社ニトリ、日本航空株式会社
任天堂株式会社、公益財団法人福武財団、富士通株式会社、学校法人法政大学、株式会社松屋、マナトレーディング株式会社
丸善雄松堂株式会社、光村図書出版株式会社、株式会社南日本新聞社、学校法人明治大学、学校法人立教学院

文学研究科 留学先国・地域別一覧 (2012年度～2021年度)

国・地域別	大学名
中国	廈門大学、復旦大学、南京師範大学、山東大学
大韓民国	延世大学
タイ	チュラロンコン大学
トルコ	イスタンブール大学、イスタンブール5月29日大学
イギリス	エディンバラ大学、サウサンプトン大学 ロンドン大学キングズ・コレッジ ロンドン大学クイーン・メアリー校 ロンドン大学アジア・アフリカ研究院、ヨーク大学 オックスフォード大学
イタリア	フィレンツェ大学、ペルージャ大学 パローニャ大学、サクロ・クオーレ・カトリック大学 パドヴァ大学
オーストリア	ウィーン大学
スイス	チューリッヒ大学

国・地域別	大学名
スペイン	マドリード自治大学
ドイツ	ジーゲン大学、テュービンゲン大学 ハレ大学、ヴェルツブルク大学、ハノーバー大学 ボン大学、ギーゼン大学、ベルリン自由大学 ベルリン・フンボルト大学、ライプツィヒ大学
フランス	ソルボンヌ大学、トゥールーズ・ジャン・ジョレス大学 ナンテル大学、パリ第1大学、パリ第3大学 パリ第4大学、パリ第10大学、パリ・カトリック学院 社会科学高等研究院、ボルドー・モンテーニュ大学 リュミエール・リヨン第2大学
ベルギー	ゲント大学
アメリカ合衆国	ウェスタンミシガン大学 イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校 カリフォルニア大学サンタバーバラ校 カリフォルニア大学バークレー校、イェール大学

2021年度 文学研究科留学生 在籍者国・地域別人数

- 中国 21名
- イタリア 2名
- 大韓民国 1名
- 英国 1名
- ロシア連邦 1名
- ポーランド 1名

学費・奨学制度ほか

文学研究科 学費 （2022年度参考、2023年度の学費は変更になる場合があります。）

修士課程					後期博士課程				
専攻名	合計	在籍基本料	授業料	その他の費用※	専攻名	合計	在籍基本料	授業料	その他の費用※
哲学・倫理学 美学美術史学	1,036,700円	60,000円	970,000円	6,700円	哲学・倫理学 美学美術史学	736,700円	60,000円	670,000円	6,700円
史学	1,037,700円	60,000円	970,000円	7,700円	史学	737,700円	60,000円	670,000円	7,700円
図書館・情報学	1,037,200円	60,000円	970,000円	7,200円	図書館・情報学	737,200円	60,000円	670,000円	7,200円
その他の専攻	1,038,200円	60,000円	970,000円	8,200円	その他の専攻	738,200円	60,000円	670,000円	8,200円

※「その他の費用」には、研究会会費・雑誌講読料、学生自治会費、学生健康保険互助組合費を含む。

大学院向け奨学制度

成績・人物ともに優秀な学生で、研究の意欲を持ちながらも、経済的な理由により修学が困難な学生を対象に、慶應義塾大学大学院では、次のような奨学制度を設けています。詳しくは、本学ウェブサイトをご覧ください。

- ・日本国籍等の学生対象：https://www.students.keio.ac.jp/com/scholarships/apply/form.html
- ・外国人留学生対象：https://www.ic.keio.ac.jp/intl_student/scholarship/intl_student.html

奨学金名		種別	金額(2021年度実績)	対象者(注)	期間
学内	慶應義塾大学大学院奨学金	給付	年額500,000円または600,000円 (金額は研究科で異なる)	日本国籍等の学生 外国人留学生	1年
	慶應義塾大学修学支援奨学金	給付	学費の範囲内(平均支給額：年額約300,000円)	日本国籍等の学生 外国人留学生	1年
	研究のすゝめ奨学金 (申請時期・条件等は研究科で異なる)	給付	年額300,000円・500,000円・700,000円 (金額は研究科で異なる)	研究科で異なる	1年
	小泉信三記念大学院特別奨学金	給付	月額30,000円	日本国籍等の学生 外国人留学生	1年
	未来先導国際奨学金(入学前申請)	給付	学費全額、生活費月額200,000円 渡航費補助を含む留学準備一時金150,000円	外国人留学生	標準修業 年限
	各種指定寄付奨学金 (詳細は上記ウェブサイトをご参照下さい。)	給付	年額100,000円～学費の範囲内	日本国籍等の学生 外国人留学生	1年
学外	日本学生支援機構奨学金 第一種奨学金(貸与無利子)	貸与	修士課程 月額50,000円または88,000円 後期博士課程 月額80,000円または122,000円	日本国籍等の学生	標準修業 年限
	日本学生支援機構奨学金 第二種奨学金(貸与有利子)	貸与	月額50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・ 150,000円(金額は本人が選択)	日本国籍等の学生	標準修業 年限
	文部科学省外国人留学生学習奨励賞	給付	月額48,000円	外国人留学生	1年
	スーパーグローバル大学創成支援事業国費 外国人留学生	給付	学費免除、月額144,000円～145,000円	外国人留学生	1年以内
	民間団体・地方公共団体の各種奨学金 (詳細は上記ウェブサイトをご参照下さい。)	給付 貸与	奨学団体の規定による	日本国籍等の学生 外国人留学生	奨学団体 による

金額等については変更することもあります。詳細は在籍キャンパスのウェブサイトを確認して下さい。

(注)対象者の「外国人留学生」とは、在留資格「留学」を有する者(取得予定を含む)。また、「日本国籍等の学生」には、外国籍の場合、永住者・定住者等の在留資格を有する者を含む。

※上記以外に「慶應義塾大学教育ローン制度」が設置されています。

<慶應義塾大学教育ローン制度> 学生または保護者などが、提携先金融機関から学費を借り入れる学費ローンです。融資条件等は金融機関により異なり、申請は大学を
通さず直接金融機関で行っていただきます。

教育訓練給付制度 https://www.hellowork.mhlw.go.jp/insurance/insurance_education.html

文学研究科修士課程図書館・情報学専攻情報資源管理分野は、厚生労働省教育訓練給付制度の専門実践教育訓練給付金の対象講座に指定されています。

留学生宿舎 https://www.ic.keio.ac.jp/intl_student/housing/ryu_boshu.html

慶應義塾大学に在学する外国人留学生(在留資格が「留学」)を対象に、年2回留学生宿舎の入居者を募集しています。募集案内は1月と7月に上記ウェブサイトに掲載します。入居時期は3月下旬または9月中旬で入居期間は最長1年(2学期間)です。

宿舎名	形態	寮費※	個室の広さ	最寄り駅
下田学生寮	単身用	63,500円	16㎡	東急 日吉駅 徒歩13分
綱島学生寮	単身用	78,000円	15.99㎡または16.60㎡	東急 綱島駅 徒歩7分
プラム・イズ	単身用	68,300円	18㎡	JR 新川崎駅 徒歩16分
大森学生寮	単身用	68,000円	12.28㎡	京急 梅屋敷駅 徒歩12分／JR 蒲田駅 徒歩15分
元住吉宿舎	単身用	64,000円	23.5㎡	東急 元住吉駅 徒歩10分／東急 日吉駅 徒歩8分
大倉山ドミトリー	単身用	55,000円	13.8㎡	東急 綱島駅 徒歩15分
日吉国際学生寮	1ユニット=4個室 +共用施設	72,000円	9.25㎡(個室部分)	東急 日吉駅 徒歩18分／日吉キャンパス 徒歩10分
綱島SST国際学生寮	単身用	78,400円	17.40～18.85㎡	東急 綱島駅 徒歩10分
元住吉国際学生寮	単身用	75,700円	14.06～14.17㎡	東急 元住吉駅 徒歩8分
湘南藤沢国際学生寮	単身用	64,500円	14.47～14.72㎡	小田急他 湘南台駅下車、バス慶応大学行き9分
高輪国際学生寮	単身用	74,000円	12.43～13.24㎡	都営他 泉岳寺駅 徒歩7分／JR 高輪ゲートウェイ駅 徒歩11分

※入寮時に、別途清掃維持管理費20,000円がかかります。なお、家賃は必要に応じて改定されることがあります。

2022年4月1日現在

入試日程・入試データ

2023年度 文学研究科 入試日程一覧 （一般入試・外国人留学生入試）

一般入試	秋期 修士	春期 修士／後期博士	外国人留学生入試	秋期 修士	春期 修士
出願登録 (インターネット)	2022/7/4～7/14	2022/12/19～ 2023/1/6	出願登録(インターネット)	2022/5/23～6/2	2022/11/7～11/17
出願書類の郵送期間	2022/7/11～7/14	2023/1/4～1/6	出願書類の郵送期間	2022/5/30～6/2	2022/11/14～11/17
書類選考 合格発表			書類選考 合格発表	2022/7/12	2022/12/7
第1次試験(筆記試験)	2022/9/13	2023/2/24	第1次試験(筆記試験)	2022/9/13	2023/2/24
第1次試験 合格発表	2022/9/14	2023/2/25	第1次試験 合格発表	2022/9/14	2023/2/25
第2次試験(口頭試問)	2022/9/15	2023/2/27	第2次試験(口頭試問)	2022/9/15	2023/2/27
合格発表	2022/9/15	2023/2/27	合格発表	2022/9/15	2023/2/27
入学手続期間	2023/3/1～3/6		入学手続期間	2023/3/1～3/6	

文学研究科 志願者・合格者数 （過去3年間の一般入試、外国人留学生入試の総計です。）

		2020年度		2021年度		2022年度	
専攻	定員	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
哲学・倫理学	10	10	7	11	5	17	11
美学美術史学	25	19	7	23	6	14	6
史学	20	26	14	30	19	26	10
国文学	20	36	13	16	3	27	6
中国文学	5	17	2	19	3	14	2
英米文学	15	11	5	18	11	17	11
独文学	10	12	7	7	5	3	3
仏文学	10	6	4	4	2	4	2
図書館・情報学	20	14	11	7	3	8	5

		2020年度		2021年度		2022年度	
専攻	定員	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
哲学・倫理学	6	4	3	6	4	2	0
美学美術史学	6	6	6	4	3	2	1
史学	10	2	2	2	0	3	2
国文学	6	3	2	6	4	3	2
中国文学	2	1	0	4	2	0	0
英米文学	5	9	2	13	12	7	6
独文学	3	2	2	0	0	2	2
仏文学	2	1	1	0	0	1	1
図書館・情報学	5	1	1	2	2	3	2

入試要項・過去問題閲覧方法

入学試験要項は、一般入試・外国人留学生入試共に、以下のウェブサイトに掲載されております。

【一般入試 修士課程】https://www.keio.ac.jp/ja/grad-admissions/masters/gsl/

【一般入試 後期博士課程】https://www.keio.ac.jp/ja/grad-admissions/doctoral/gsl/

【外国人留学生入試】https://www.keio.ac.jp/ja/grad-admissions/international-students/gsl/

過去問題は文学研究科が開示可能と判断した部分について、以下のウェブサイトで公開しています。

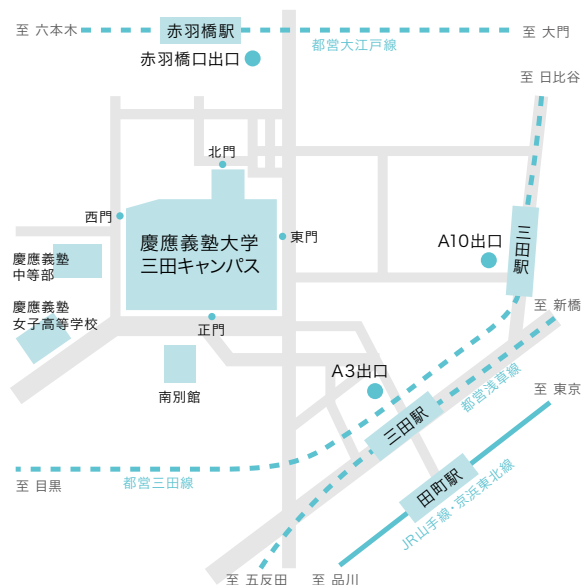
【過去問題閲覧方法】

(修士課程) https://www.keio.ac.jp/ja/grad-admissions/masters/past-exams/

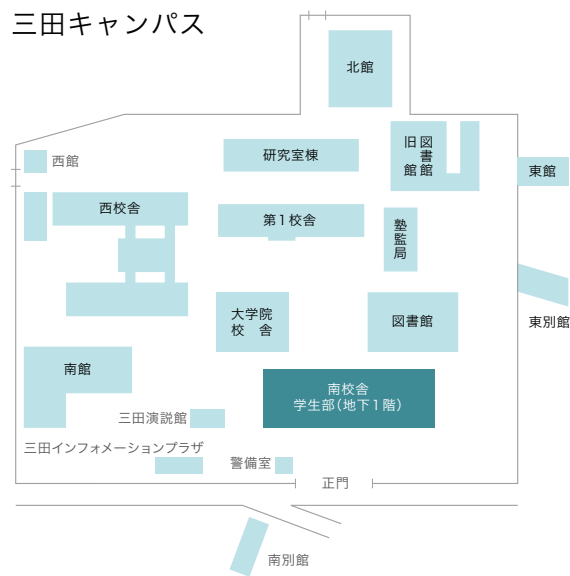
(後期博士課程) https://www.keio.ac.jp/ja/grad-admissions/doctoral/past-exams/

また、学生部(三田キャンパス)で、過去3年分の問題を閲覧することができます。複写はできません。

Access Information



三田キャンパス



交通アクセス

● JR 山手線・京浜東北線 田町駅下車(徒歩 8 分) ● 都営浅草線・都営三田線 三田駅下車(徒歩 7 分) ● 都営大江戸線 赤羽橋駅下車(徒歩 8 分)

主要駅からのアクセス

東京駅 ● JR 山手線・京浜東北線 田町駅
所要時間約 10 分

新宿駅 ● JR 山手線(渋谷・品川方面行) 田町駅
所要時間約 25 分



慶應義塾大学 大学院案内 2023
文学研究科
〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45
<https://www.keio.ac.jp/>

お問い合わせ
学生部文学研究科担当(南校舎地下1階)
03-5427-1555
mita-bun@adst.keio.ac.jp